

蒼天に展く

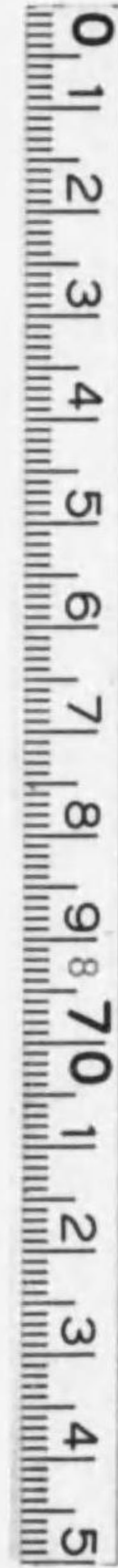


特 251

542

集眞寫空航地補候園公立國

影撮班眞寫聞新日每阪大



特261
542

大阪毎日新聞寫真班攝影



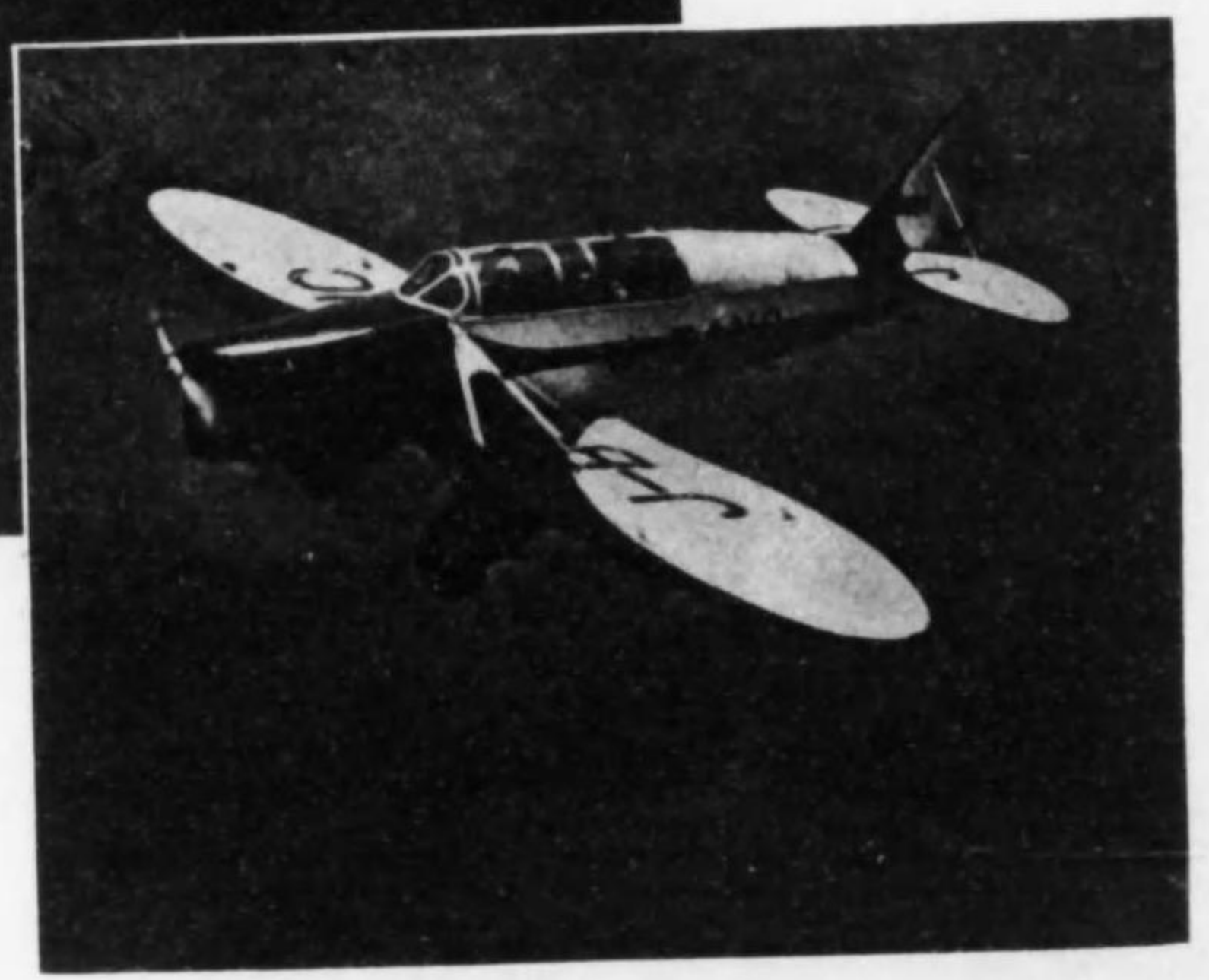
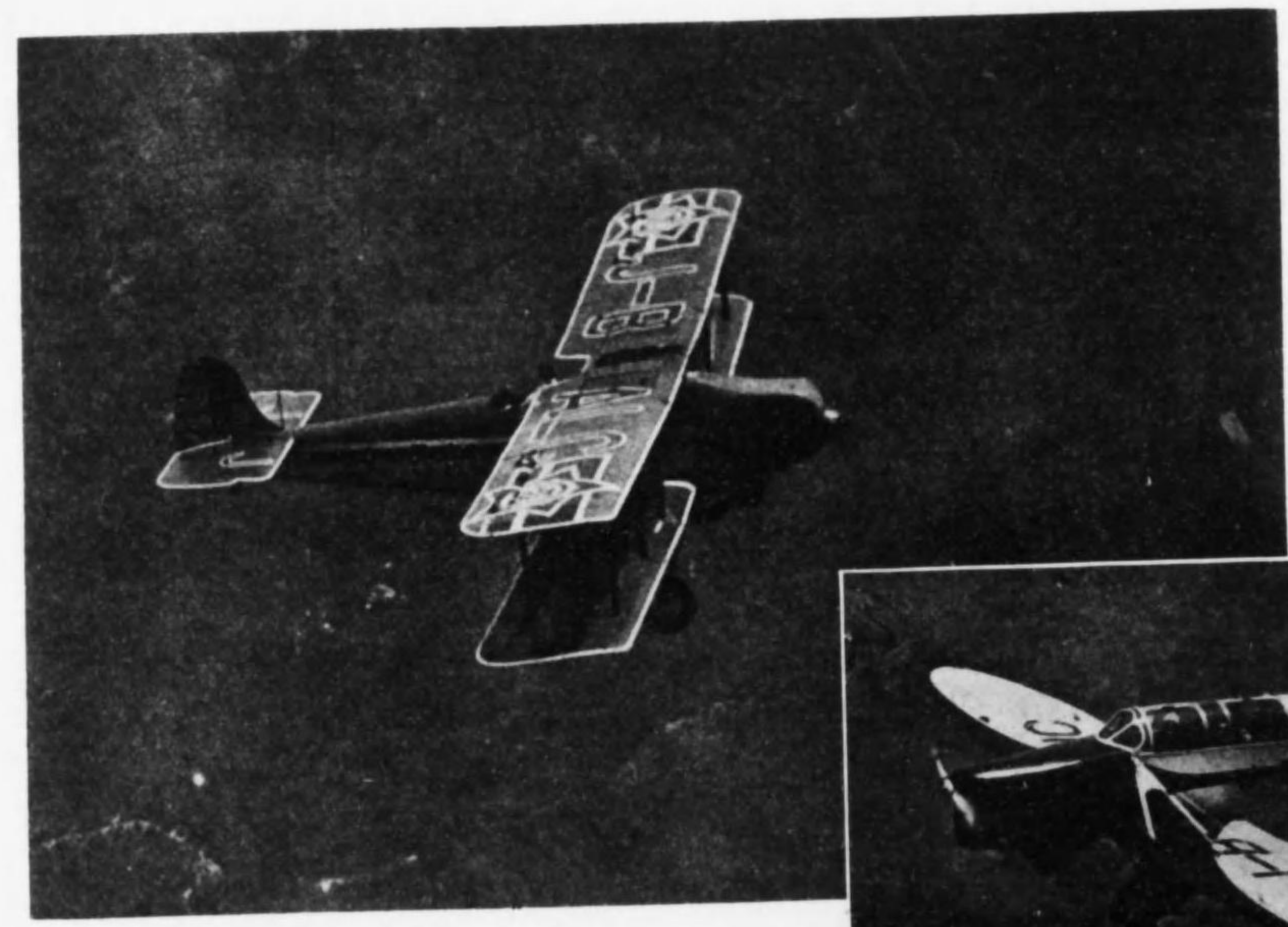
蒼天展

國立公園候補地航空寫真集



345-25

本集の寫眞撮影に従事
せる本社飛行機の雄姿



(型三三ダレフ) 機號三十二第毎大 下 (型二一「菱三」) 機號一十二第毎大 上

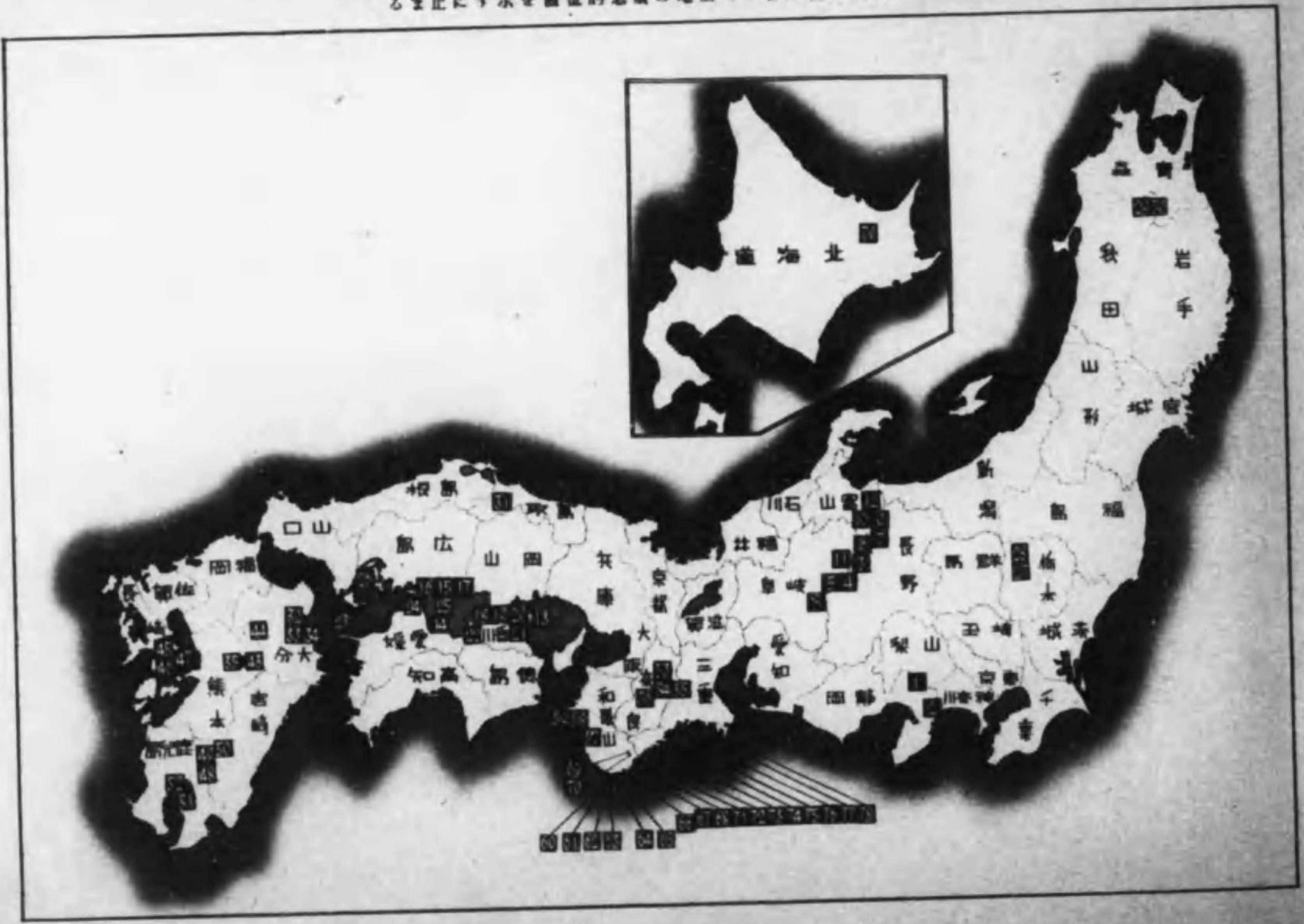
目次

1、富士五湖 (甲斐)	20、屋島 (讃岐)
2、箱根の富士 (相模)	21、屋島壇の浦 (同)
3、日本アルプス穂高岳 (信濃)	22、讃岐富士 (同)
4、同穂高及び焼岳 (同)	23、伊豫灘屋代島 (同)
5、同焼岳 (同)	24、來島海峡 (同)
6、同槍ヶ岳 (同)	25、四阪島 (伊豫)
7、同七倉から烏帽子岳 (同)	26、嚴島 (安藝)
8、同乗鞍岳 (飛騨)	27、華嚴瀧 (下野)
9、同立山連峰 (越中)	28、中禪寺湖 (同)
10、同劍岳 (飛騨)	29、十和田湖 (陸奥)
11、同笠ヶ岳 (同)	30、同
12、同黒部溪谷 (信濃)	31、大雪山 (伯耆)
13、小豆島 (讃岐)	32、別府高崎山 (豊後)
14、赤穂根島 (伊豫)	33、別府 (同)
15、柄仙醉島 (備後)	34、別府 (同)
16、同	35、南郷谷の阿蘇 (肥後)
17、柄の浦 (同)	36、宮地の阿蘇 (同)
18、高松市上空から屋島 (讃岐)	37、阿蘇中岳 (同)
19、讃岐屋島 (同)	38、同噴火口 (同)

39、阿蘇山 (肥後)	60、潮岬 (紀伊)
40、阿蘇噴火口 (同)	61、同
41、同	62、串本港 (同)
42、同	63、串本町 (同)
43、阿蘇根子岳 (同)	64、樫野岬 (同)
44、久住山 (豊後)	65、周參見町 (同)
45、温泉岳 (肥前)	66、古座町 (同)
46、雲仙公園 (同)	67、宇久井港 (同)
47、島原港 (同)	68、勝浦灣 (紀伊)
48、高千穂峰 (日向)	69、那智の遠望 (同)
49、霧島新燃 (同)	70、那智瀧 (同)
50、同韓国岳 (同)	71、新宮町 (同)
51、櫻島御岳 (薩摩)	72、熊野川河口 (同)
52、錦江灣 (薩摩)	73、木ノ本海岸 (同)
53、吉野山 (大和)	74、木ノ本町 (同)
54、山上ヶ岳 (同)	75、鬼ヶ城 (紀伊)
55、大台ヶ原山 (同)	76、御濱七里 (同)
56、佛經ヶ岳 (同)	77、尾鷲灣 (同)
57、湯崎 (紀伊)	78、引本港 (同)
58、瀬戸鉛山 (同)	79、阿寒湖 (網走)
59、田邊港 (同)	附録 国立公園の候補地

本帖收錄眞撮影個所圖表

高眞撮影によつて地上の地景の概念的圖位を示すに止まる



一、本寫眞集に收録した航空寫眞の撮影は、本社機のうち主として左の二機を使用した。

三菱式T一二型 大毎第二十一號機 J-BALC

翼幅	一四、八〇〇米	座席	三
機長	九、八〇〇	航続時間	一〇〇分
機高	三、五〇〇	發動機	イスバツ・スィ
速力 (最高七分ノ二)			サ四五〇馬力

伊國製ブレダ三三型(輕飛行機) 大毎第二十三號機 J-BAMC

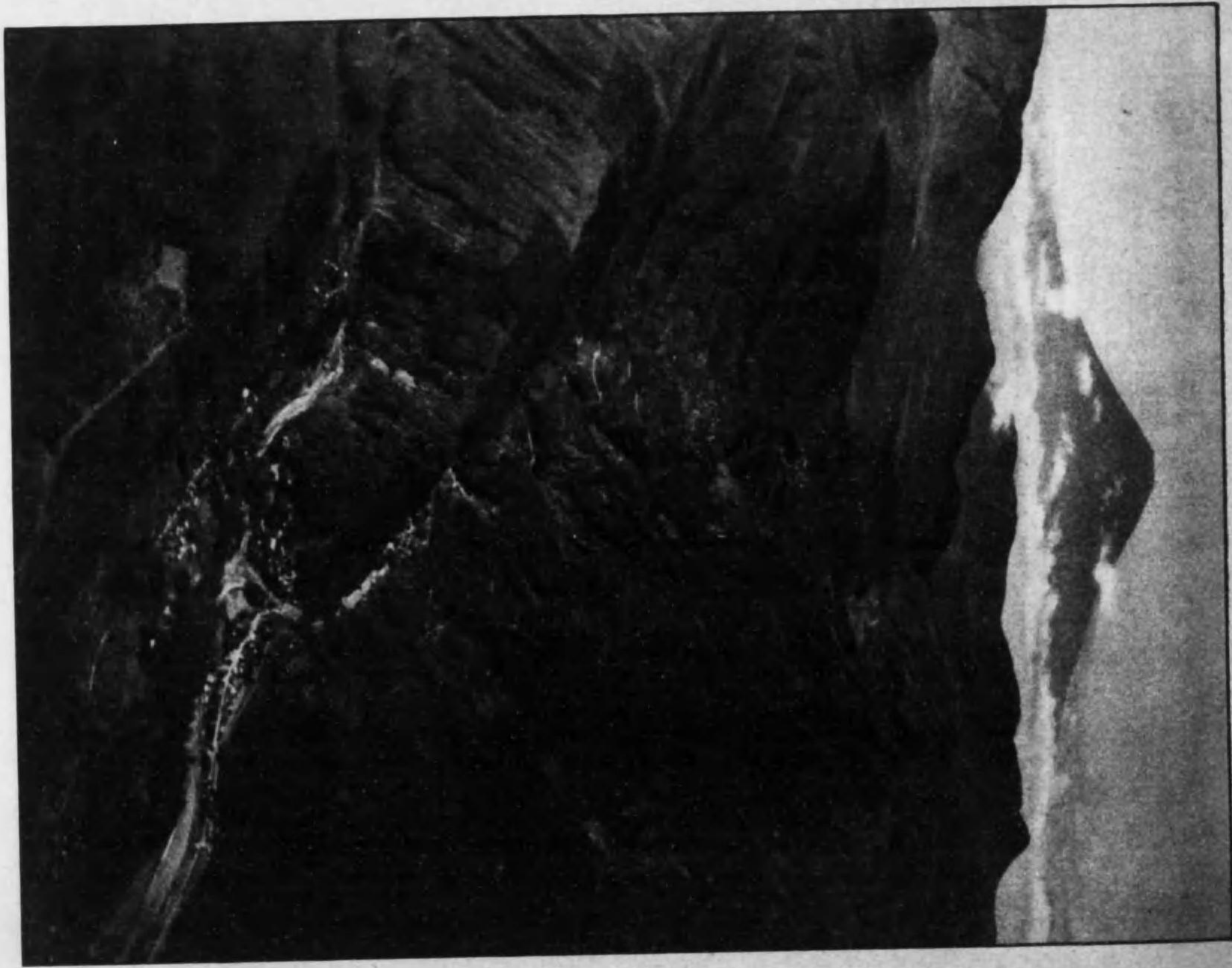
翼幅	九、四〇〇米	座席	二
機長	六、八〇〇	發動機	レアリ
機高	二、〇三〇		一〇五馬力
速力 (最高二〇八)	八時間(滿載)		

- 一、本寫眞集の寫眞は、本年三月頃から七月にかけ、新しく撮影した航空寫眞のうち、主として國立公園候補地に關するものを收録したのであるが、そのうち景観の變らざるものは、二、三先年撮影の分を増補したる箇所あり、また北海道の阿寒湖は、未だ航空寫眞なきため、特に地上撮影一枚を加へ置きたれば諒とせられたい。
- 一、説明記事は地理的記述よりも、實際の畫面に見ゆる地形についてこれをなし、なるべく高度、方向、撮影當時の天候等を主として現すことにつとめた。
- 一、別に候補地のわが國における位置(撮影箇所)は、別掲の地圖によつてこれを知るに便ならしめ、なほ一般に國立公園に關する概念を明かにするため、卷末に附録として、選定に關する經過、各候補地の特質、公園の區域等を、明細に書き記して置いたからついで知られんことを望む。



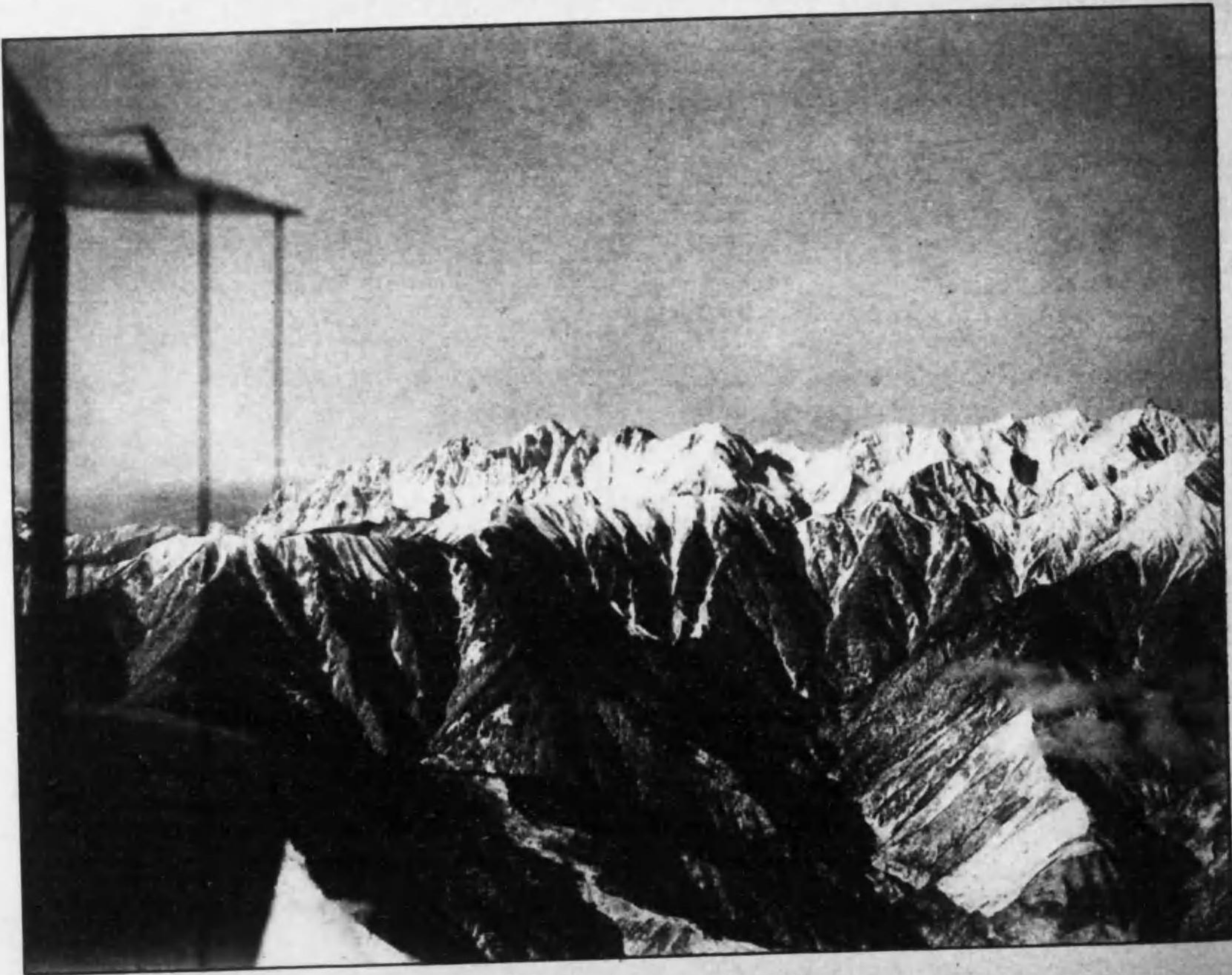
河口湖、西湖（甲斐）

富士五湖のうち、西湖村の上空から、西湖を臨んで、向うに河口湖を見た景色である。中央ニテの湖の相接するところに西湖村と長瀬村との村屋が點々と見わたるが、雲裏では十分でない。右手の山は足和田山、左手の白雲につままれてゐるのは十二岳、鬼岳などの諸山。遠く黒岳の峰頭が雲を裂き、日の光りが河口湖の水面に落ちて輝くやうな美しさである。富士山北西の大空に見出した大景。



2 湯本の富士（相模）

箱根湯本村の上から北西に仰つて、遠く富士を見たもので、峯谷は早川の急流、手前の湯本を中心として左から須賀川を合せる。この峯谷中には箱根街道が御殿場に通じてゐて、野井、湯原、御石原などの名所があるが、写真では十分に見えない。富士の裾野一帯白雲に閉ぢ込められてゐるが、その下流りに御殿場の町がある。湯本の村から富士の山麓まで、直線距離三二・八里の大距離である。



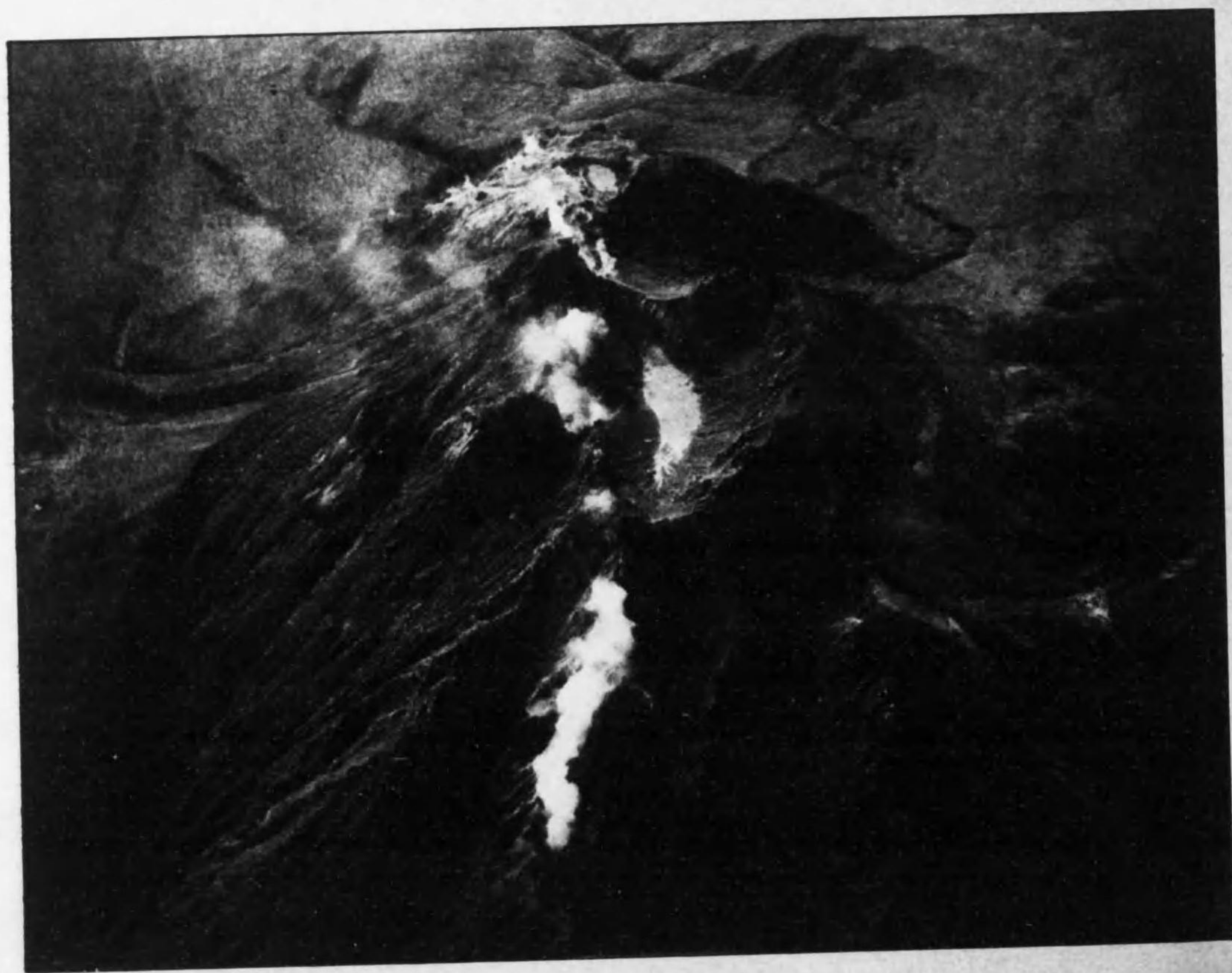
3 穂高岳 (信濃)

五月ごろにおける信州穂高岳の天鏡である。山岳の航空写真は、夏季の方が撮影しやすいと考えられてきたが、実際は冬季の方が気流がすつと良好のやうである。写真は梓川上流、上高地方面から見た穂高連峰で、奥の穂高岳をはじめ、御池岳、明神岳など、一帯にあつまつてゐる。一片の浮草もないところ、天壇は漸く長い氷の段から、夏を期へようとしてゐる。



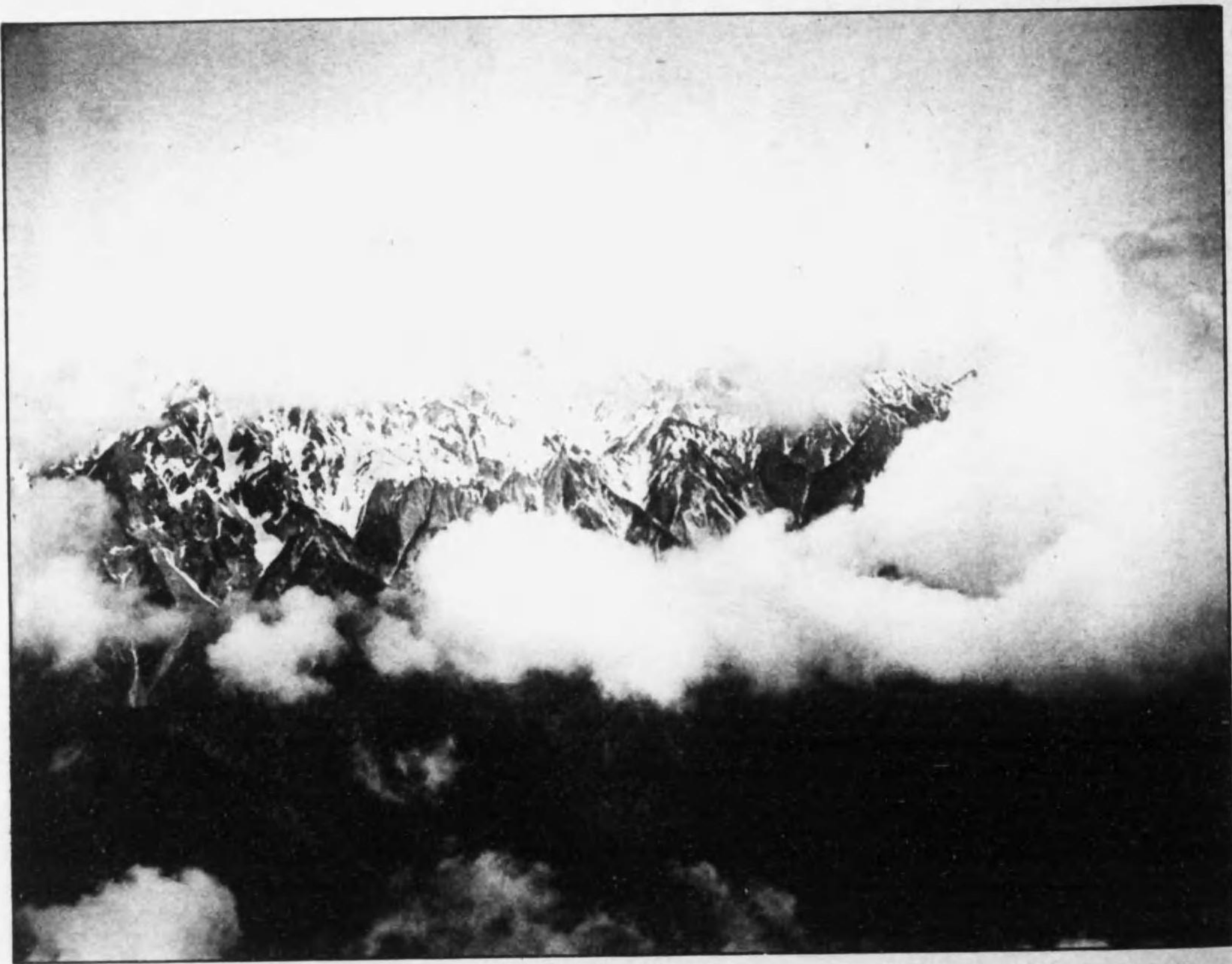
4 穂高岳 (信濃)

前ページから少し右にキヤマラを向けて、雄岳方面を歩んだ景色である。高度が高いため、附近の山形が全く曇つてゐるが、雲中には附近の山々が悉く王座嶺に朝するの観がある。



5 焼 岳 (信濃)

焼岳に登るには信州の上野地から登る道と、神原の平瀬、中尾方面から登る道との二つがある。時々噴煙をあげることがあるが、いまだはたゞわづかに煙氣が上つてゐるばかりである。登山は頂上を北々西の位置から、南々東に向つて登つたもので、右の陣のところは方る山下に流れてゐるのが梓川、と字樣になつた火口壺の上端近く、尾根つきに平海から安房峠に出る山道がある。下から三つ目の噴煙の盛りから斜左下へ落ちた雄嶺の黒い谷に沿つて登山道が見ゆる。



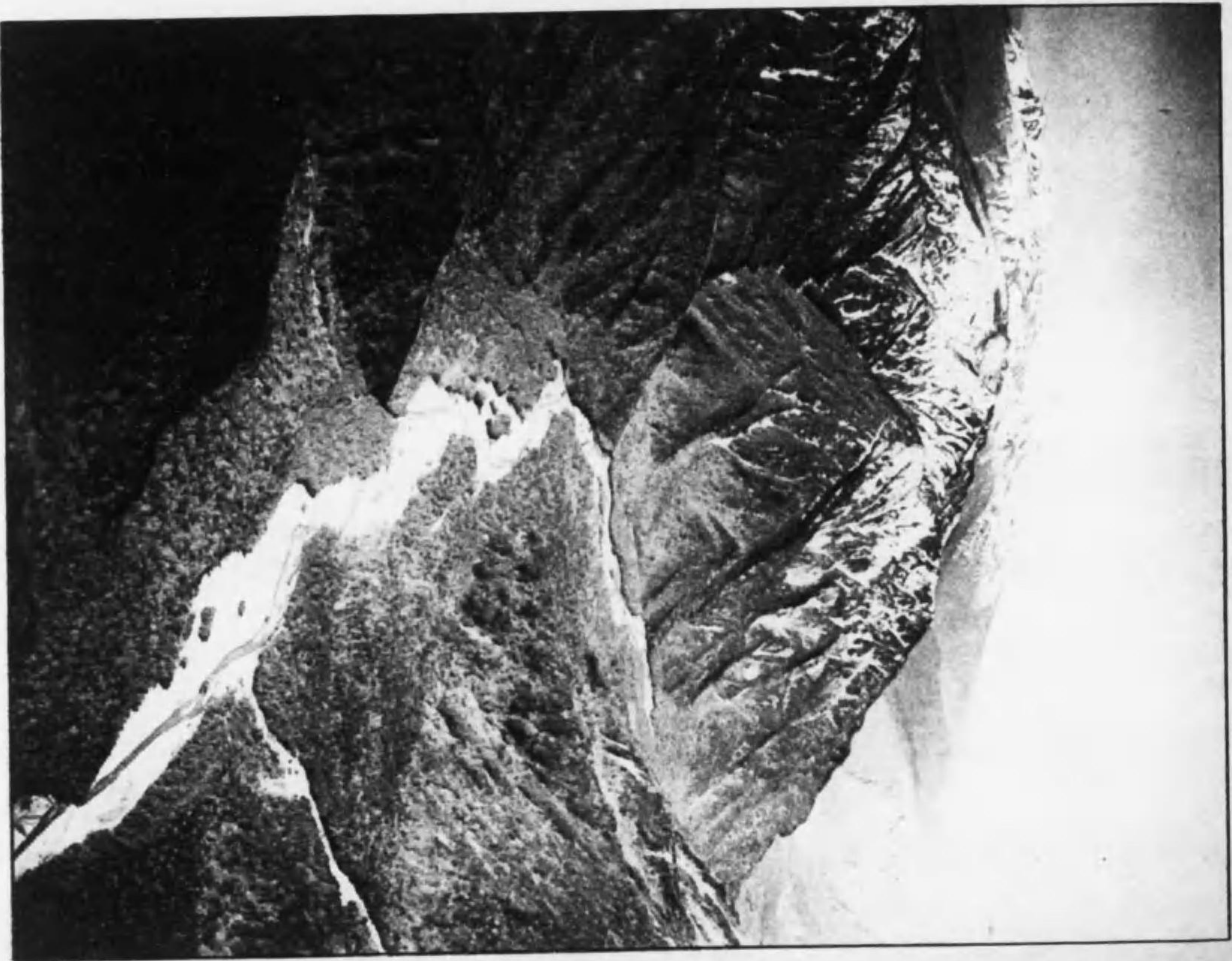
6 槍ヶ岳 (信濃)

日本アルプスを説くもの、いづれもその中心を槍ヶ岳としないものはない。それほど槍ヶ岳は大変化してしまつた。しかし上谷を滑んでこゝに來たとき、標高の間を越つて、天に掛りかけてゐる、その峰頭を穿わと、物産を越して、一極の界を越わしめた。天は五月、漸く
 霧りから登めんとする槍ヶ岳、標高の連峰。



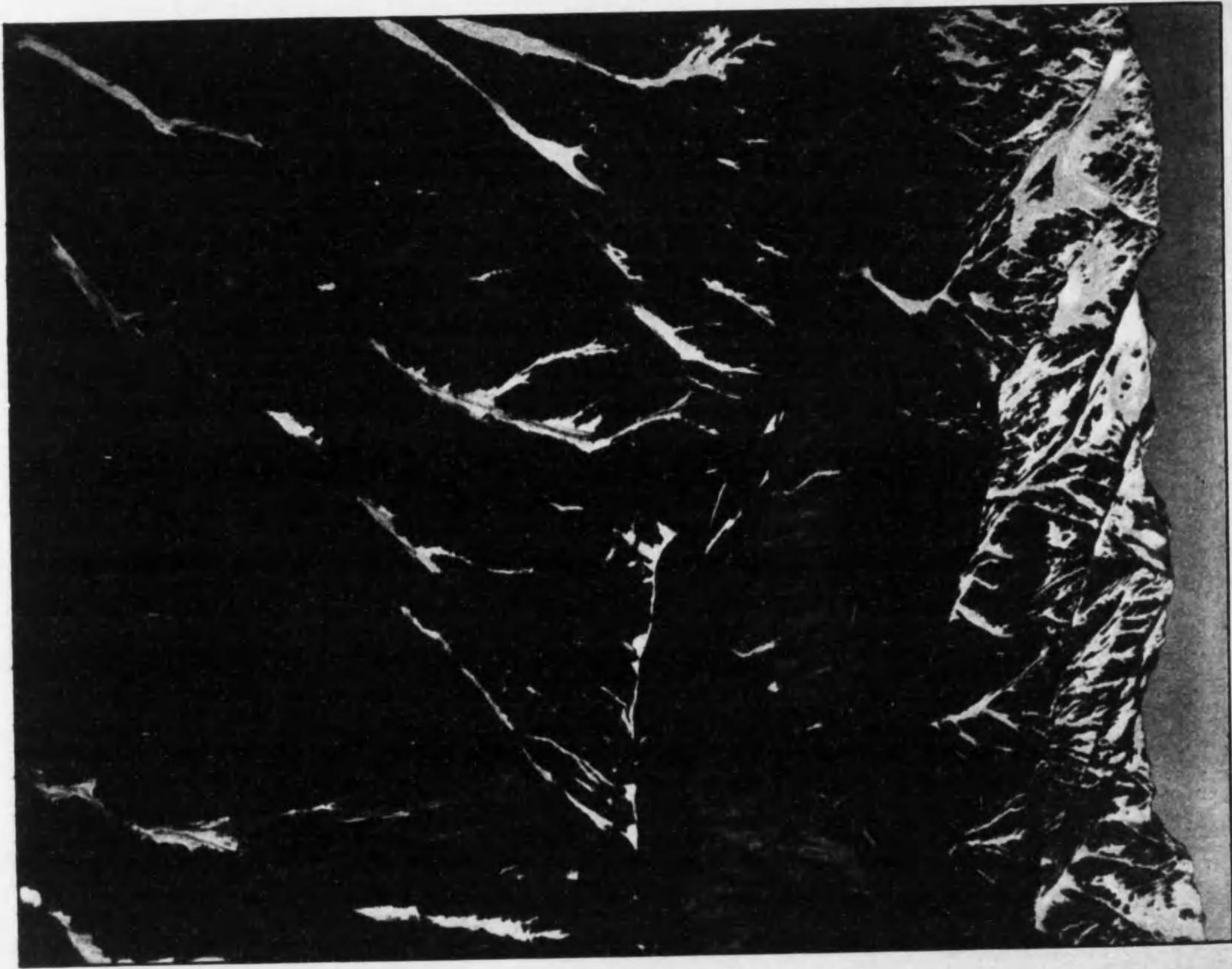
7 烏帽子連嶺 (信州)

群の木の間、七郎屋敷の上空から、南に烏帽子連嶺を望んだ景色で、深く深い、黒い五郎、三徳堂などの峰が見える。左手の白雲の下は、黒川谷。この峠つたひは、群の木から横ヶ岳まで、三日間で行くことが出来る。



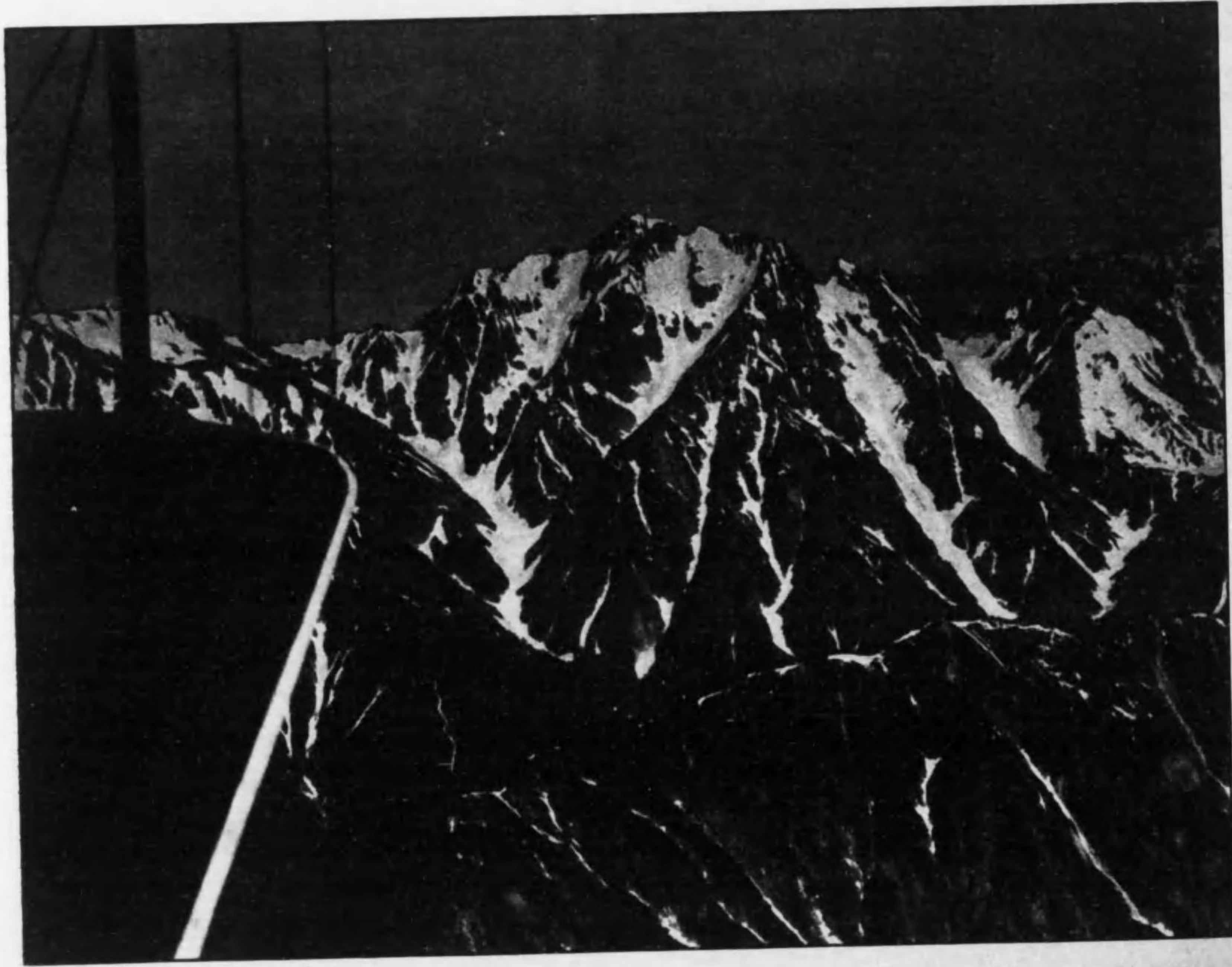
。 乘鞍岳 (飛驒)

飛驒では、鞍に岳と呼んで、高山の正峰と崇めてゐる乗鞍岳の雄大な山容を、信州側から西に望んだ風流で、下に流れるのは奥馬、鯉の水をまつめて、上流地の深女林を浸す梓川の深流である。山上には、大小數個の池があつて廣大なお花畑を作つてゐる。雪崩は稀々あるが、乗鞍の平野から望むもの、信州の白雲から望むもの、富田川の葦原の野原から望むものなどが有名である。



立山連峰（越中）

立山の主峰尾山の雄姿を中央にして、寒流を西から見た大観である。
一万尺の天崖を深きところ、年々幾万といふ人数の足跡を印してある
越の立山。雪が積るの上からこれを歩くと、極寒を感ずる、さながら
らに天を覆った自然の大影に思かされる。左峰からのぞいてみる
のは胸ヶ岳である。



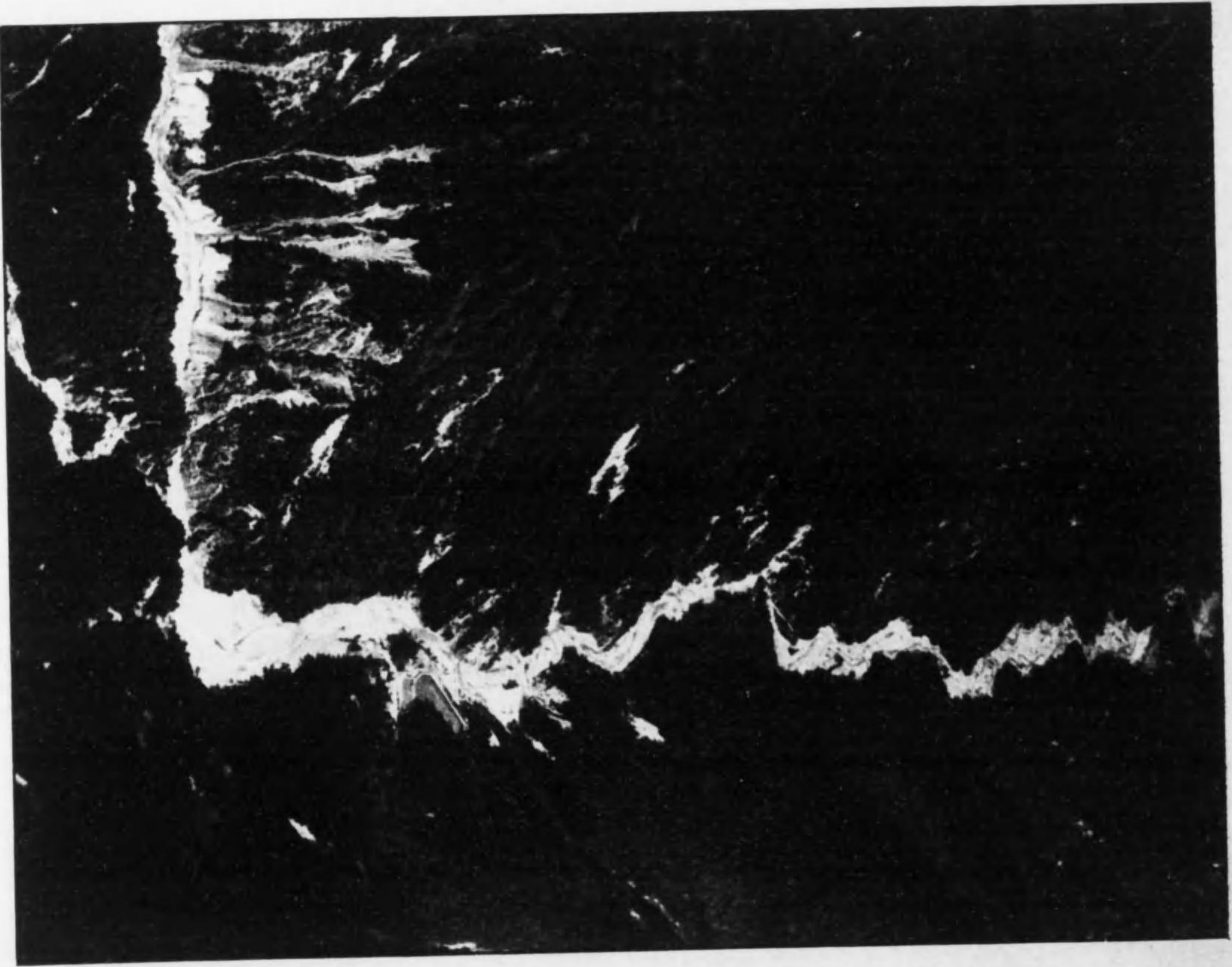
10 劍岳 (越中)

立山群峰中の王座、劍岳の絶頂を、南東方面から望んだ風景である。上方中央に高いのはその頂上、頂から中央に下へ引いてゐるのは第二次尾根、その左が平蔵谷、長次郎谷、いづれも登山者の名がつけてある。長次郎谷の中ほどに黒く見えるのは鷹の岩、その右に三峰形に控えてゐるのは八ツ峰。この遊りには三遊、大遊、小遊、池の平山、赤丸、白丸などが見える。平蔵谷の左方が龍が舞、その左は別山新薬師、越中附近の上空から西北に向つてみたものである。



11 笠ヶ岳 (飛騨)

赤岳の方面から見た笠ヶ岳、抜戸の標高で、雪線は、ねちくと押し寄せる白雲に閉ち込められてゐる。標高二、八九八は、笠の頂上は大笠、小笠に分れ、その鞍部に小屋が作られてゐる。笠から抜戸への峠道、それから抜戸岳のロケットライミングなど、スキーに、岩登りに、スキアルピニストの魅力の無窮となつてゐるところ、尾根通りを長編して笠ヶ岳まで行くことが出来る。



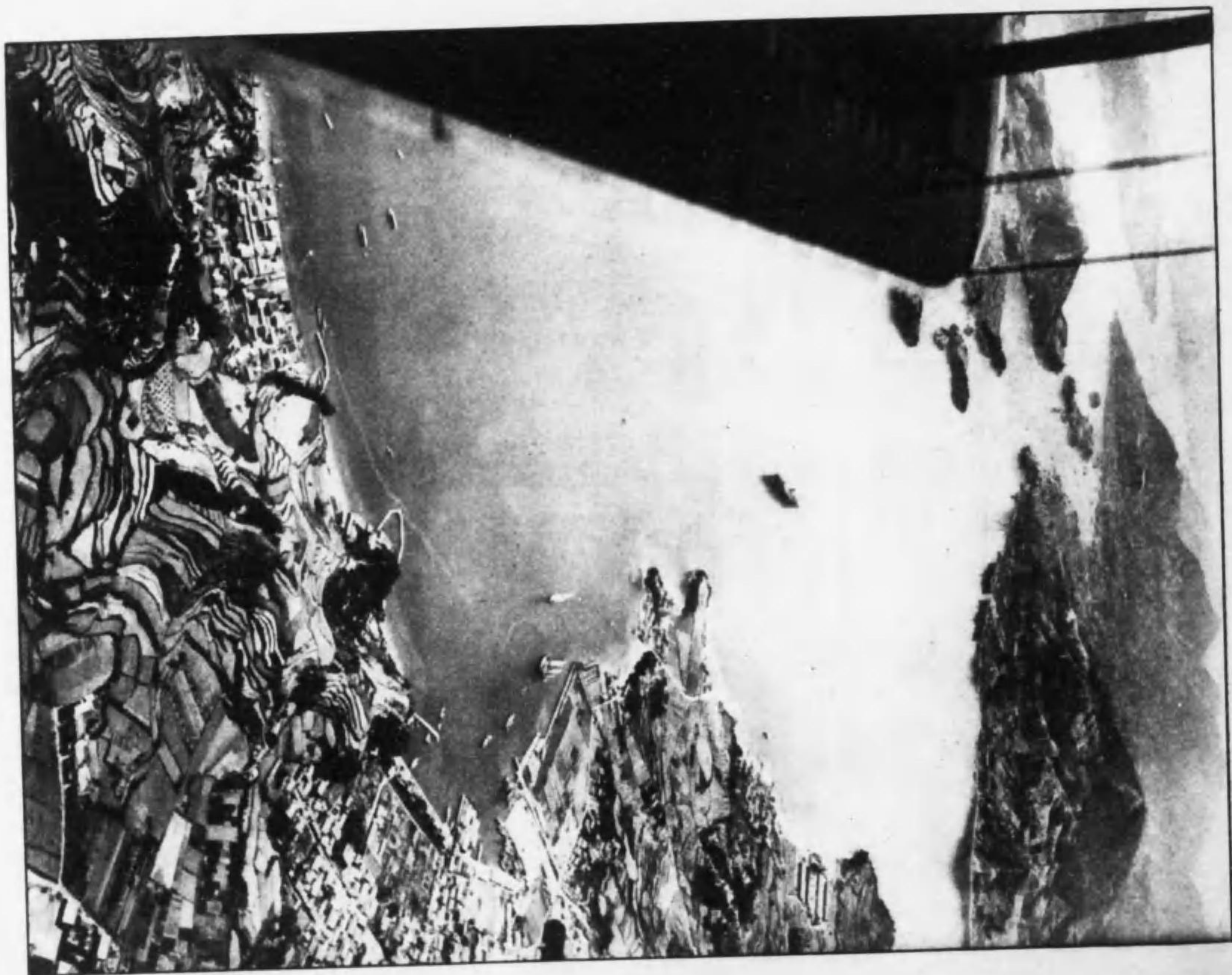
12 黒部溪谷 (越中)

黒部溪谷中、黒部御山の峰を深く鋭化した蛇曲の一部を、下流(北方)に向つてのぞき込んだものである。蛇曲の合流點からすつと上流(立山東西の水をあつめる内、龍窟潭の落ち込下流)で、この邊りは水龍から五、六百坪の幅さに歩道がつけられてゐる。蛇曲の上流、右手に水力電氣のダムらしいものが見ゆる。



13 小豆島 (讃岐)

小豆島の土ノ庄町を南の海面上空から東北に望んだ風景で、中央島と島との海峡に人家の見えるのが土ノ庄町および徳島村。海邊近く四角な畑はみな開田である。町の南端佛崎から船々と飛鳥つとさきで手前に見れてゐる陸地は余島の一角、十勝時にはこの間を徒歩で歩くことが出来、いま海水浴で賑はつてゐる。この遊花園の窪地で大阪城の石垣は多くこゝから運ばれたといはれてゐる。徳島からもつとよく、汽船で一時間余見ゆる隼り四國特有の段々畑が美しい風景を描いてゐる。



14
燧 灘 (備 後)

備後尾道の海岸近い燧灘の群島を、南から北に附つて寫したもので、この邊の空を穿るときは、上空から見る山峯の段々畑の畝に引きつられる。群島は弓削島、生名島、御調郡の半島などをや、北西に穿んだのも、手前右端に見ゆる村落は、弓削島の下弓削、左は大田、はるか前方、群島の端のところにある點々たる小島は、生名島の群島群、子島、磯島などである。



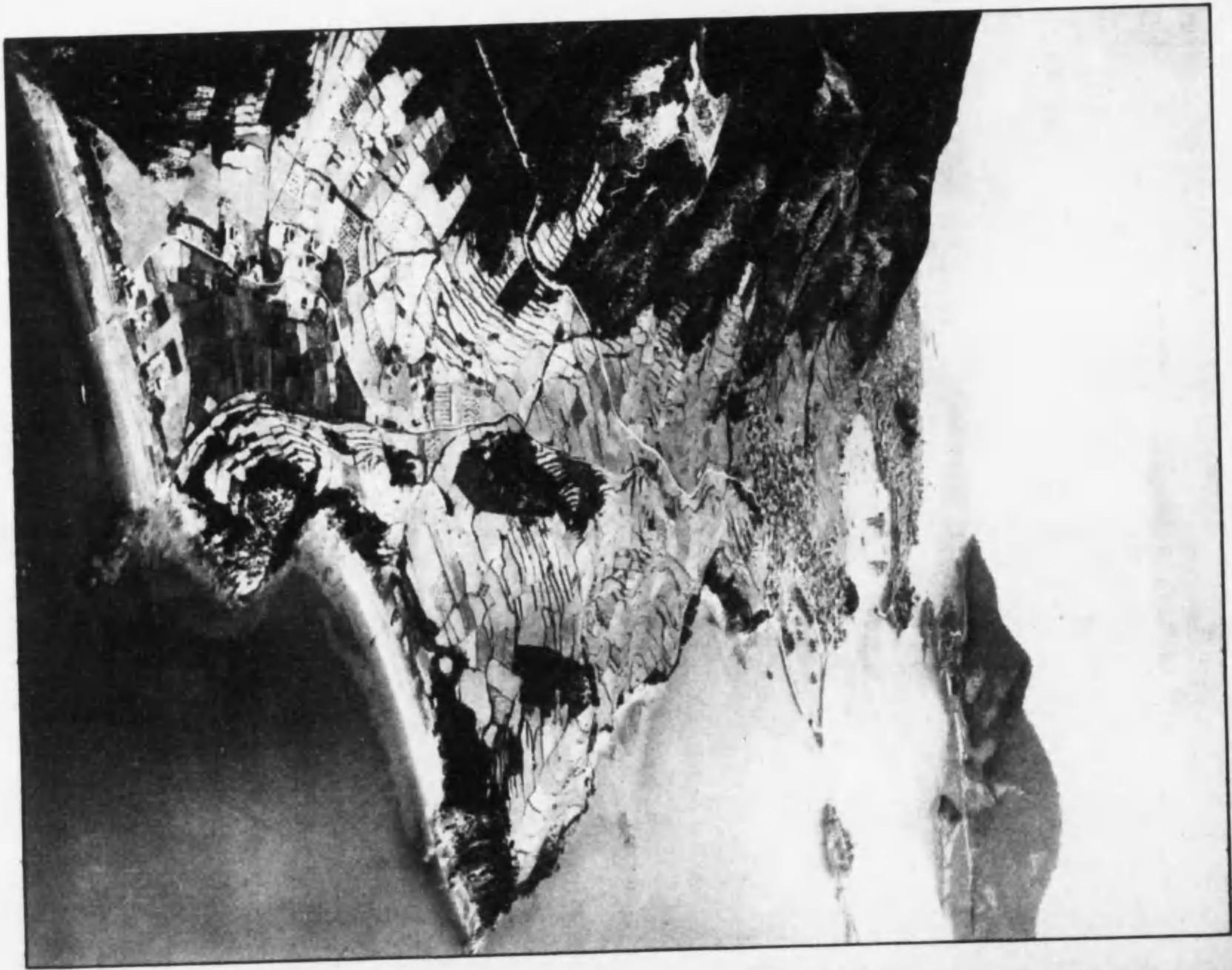
15 鞆の浦 (備後)

鞆の浦の上空、雨の海上から北に向つて見た景色で、右に見えるのが
 仙那島、その前にあるのは弁天島および尾島、最も手前に見えるの
 は津鞆島である。鞆の町は、深い灣をつくつて、左の山麓に崖をつ
 つてゐる。高度約五〇〇は、斜に遠く望んでゐるので地形などは十分
 にわからぬが、船で行くと、島嶼の數々が隠れて見えないところであ
 る。左側の海岸は後地の平地から急流に至る海岸線である。



16 鞆の浦 (備後)

鞆から同じほどの高度をとつて、鞆島の上空から西に鞆港を見た
 景色である。手前の陸地は鞆島、弁天島はすぐ前に小さく、皇巨島
 は左に浮んでゐる。かなたの海岸線一帯に鞆の津の人家が軒をならべ
 てゐるところが見ゆる。左方海岸線の突き出した先きは鞆伏重観音の
 ある鞆伏重観音である。瀬戸海をゆく船はこの先きを廻つて上部の右
 手の海岸に出て行く。



17 柄の浦 (備後)

備後の備前川の源——上方が柄の町、右上が仙傳島、その左下が弁
 天島、右が尾島、少し離れて下が千代島である。中央に突き出してい
 るのが狐島で、それから左手へ「」を形成してゐるところ、色とり
 どりに傾が美しい開きを見せ、その中ほどの白島は尾道市へ通する街
 道である。こゝらあたり、瀬戸内海が世界に誇る「」の中であらう。



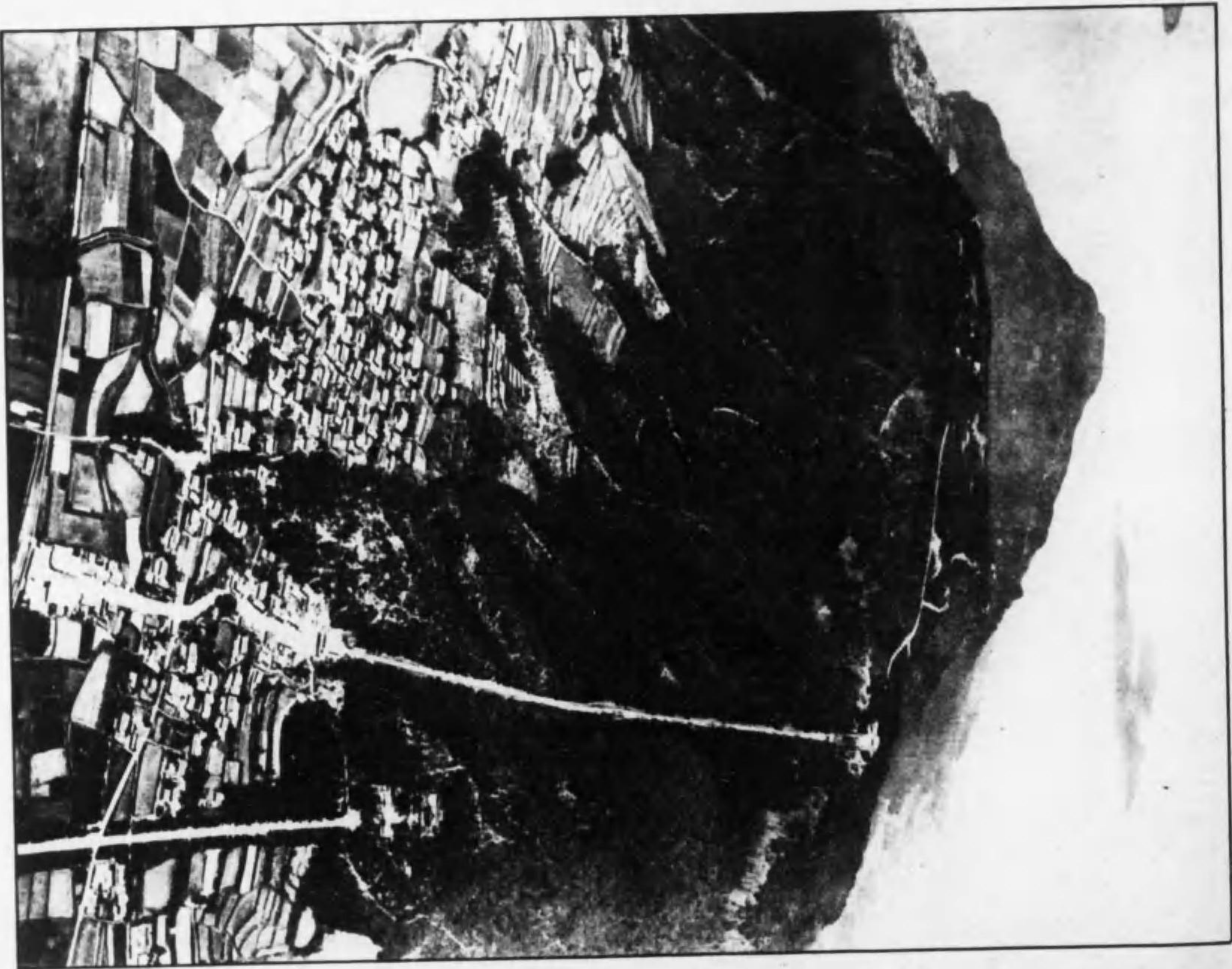
18 高松の屋島 (讃岐)

高松市の上空から遠く屋島を望んだ景色である。玉藻浦の海岸から、つづいて、この邊から見た屋島の形はあまりによい方ではない。突如長崎島の海に入るところがシルエットの如く明かに見ゆる。前方に遠く見ゆるのは小豆島、藍々と海に浮かぶ島は大島、豊島、兜島などである。



19 屋 島 (讃岐)

屋島は、深く望んだときは全く海中に浮んだ大屋根の觀があるが、高度五、六〇〇の上空から下瞰すると、物も心臓のやうな形に見える。觀望は、海上から南西に全島を望んだ風流で、左手が檣の嶺、右手は高松市につゞく玉藻浦の海岸である。島の標高二八二尺、この突所を長崎嶺といつてゐる。



20 屋 島 (讃岐)

その昔白旗、赤旗を懸して戦つた戦平の古戦場……瀬戸内海に屹立する屋島古屋島の全貌である。駅真は東州から北西に向つて望したものの、麓の白旗は四國水電のケーブルカーで、下部戦場の右に見える殿い倉道とお城が屋島神社、山上に蔵古殿、屋島寺等の建物が見ゆる。上部右端に白く湧んで見ゆるのは壇の湖の一部、山道は遙く北端に亘いて沖合瀬が野島、徳島などの小島が浮んでゐる。



21 屋島檀の浦 (讃岐)

屋島をめぐつて、高度約三〇〇m、西から東に向け、檀の浦一帯を俯瞰した景色。右手の黒い山影は屋島東端。それから深く海峡をつくつて、相引川の檀田に入りこむところ。その邊一帯が平家源氏の歴史に名高い檀の浦である。檀田の手前に見える人家は石島の部落。海岸の丸山から庵谷村の半島を越えて、大川郡白方邊りの海邊が見ゆる。



22 讚岐富士 (讃岐)

下津井附近の上空から遠く南に飯山(讃岐富士)を望んだ風景で、讃岐富士は、僅々四三三に過ぎない小山であるが、平野に噴き出したこの円錐形は、この邊を通る空の旅行者にとっては唯一の目標になつてゐる。城山、金山、常山、津山、青山など、四〇〇から二〇〇くらゐまでの同じやうな山がいくつも重んでゐる。海岸側、左方に飯出右方に宇多津、丸龜などの市街が見ゆるのだが遠くてさだかではない。方形の観音は、この邊の空の巖に目に立つ巖出である。



23 屋代島 (周防)

柳井津の東方にある屋代島の要路で、海上から南に向つて西方の海岸を俯瞰したもの。手前の陸地は我島の一角、左の島は新宮島で、右方下出から備後一帯に無数の人家が建て列ねてゐる。正面の山嶽を越つて、南流に出る道路がある。



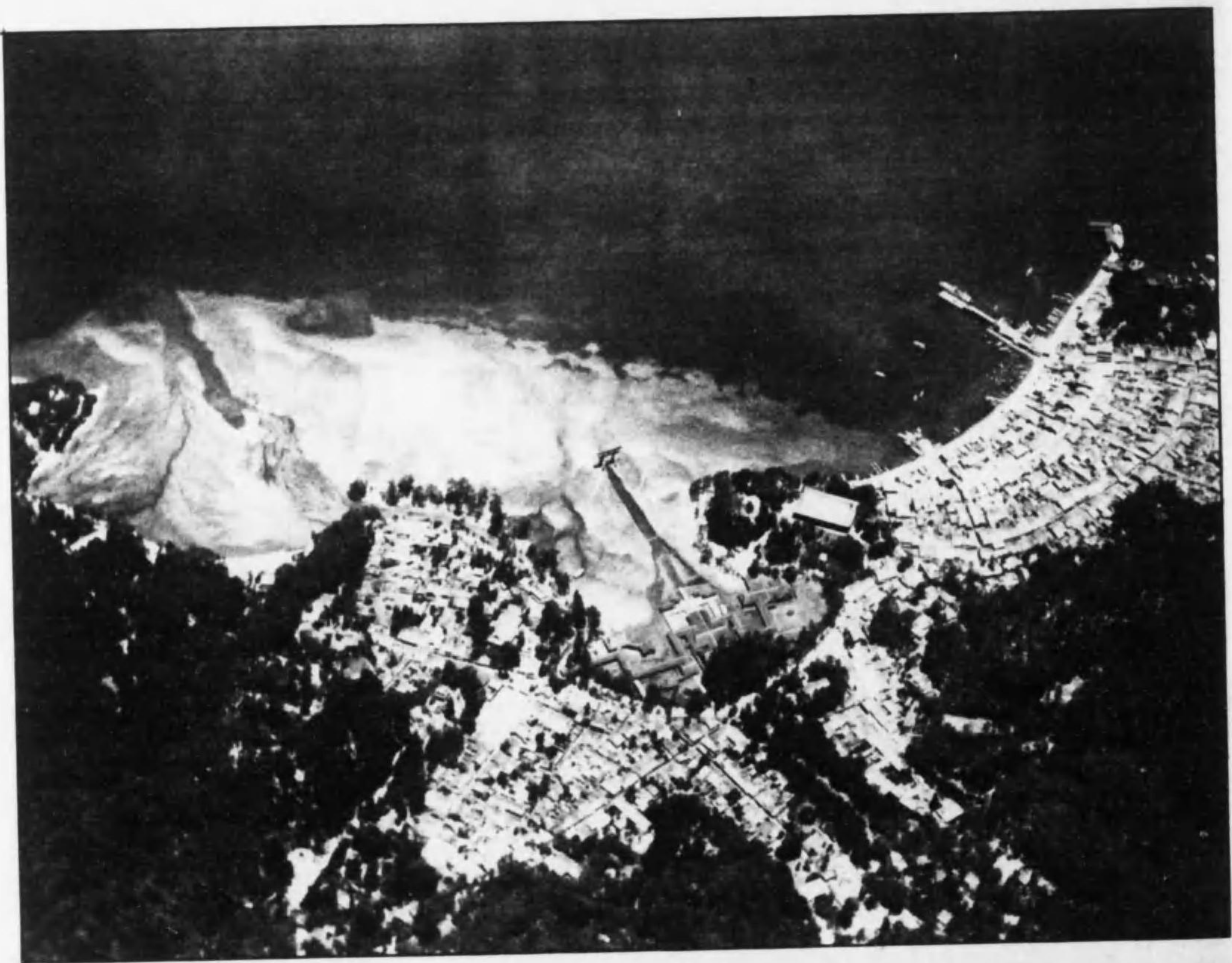
24 來島海峡 (伊 豫)

伊豫今治の北西方、望勝地として知られてゐる來島海峡である。潮波の急激が渦を巻いて奔流する壯觀は、鳴門に次ぐものといはれてゐる。中央の島が來島、その下方扇状地のある平地は鹽田である。鹽田の傍を流れる小川に沿つて建てられた家は、地方村の製鹽業者の屋である。左側海岸に沿つて建てられた家は、今治の製鹽業者といふべき良港。上の丘陵が波止瀆公園になつてゐる。



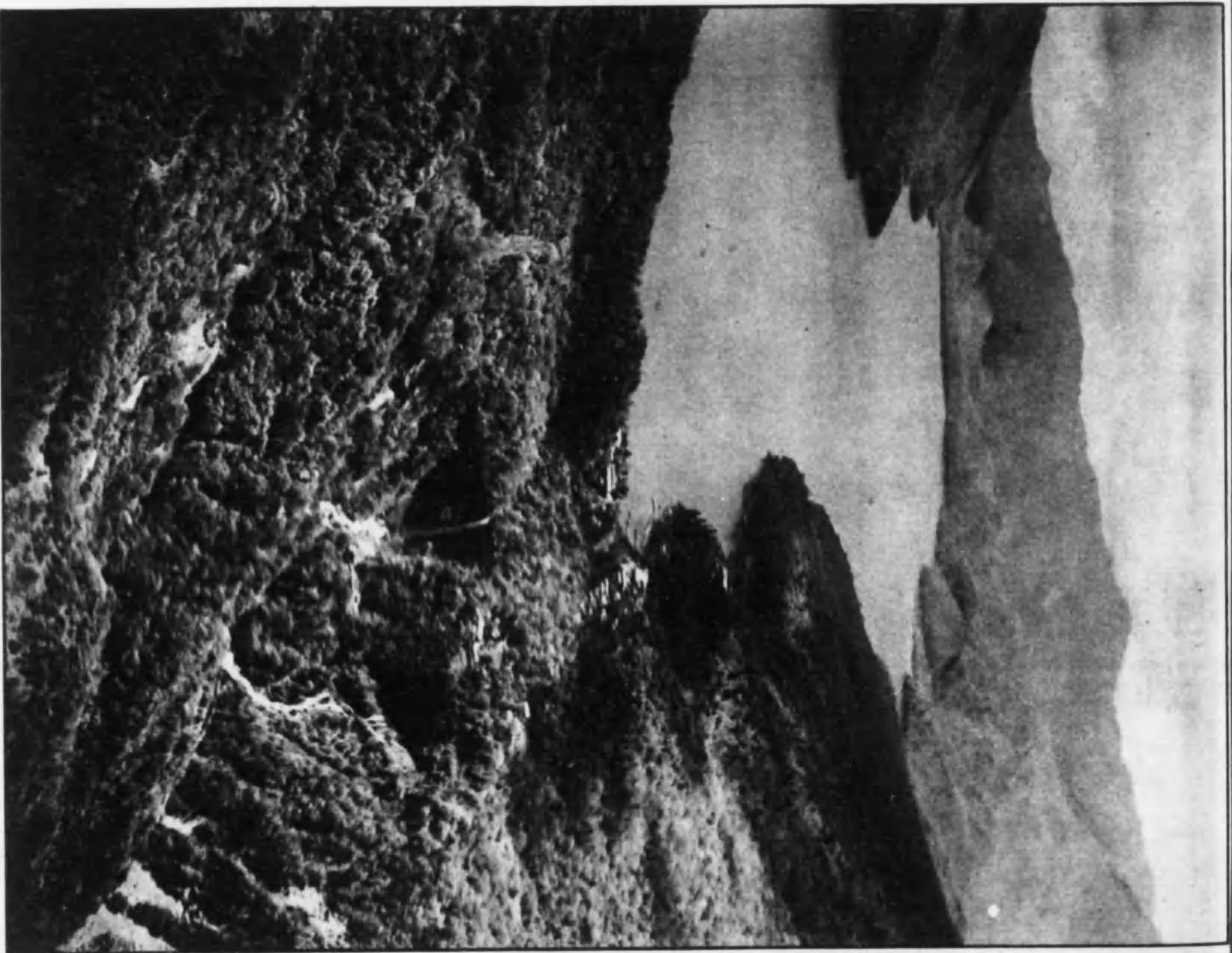
25 四坂島 (伊 豫)

伊豫の今治から海上四里、雄島の一角に浮んだ四坂島の工場風景である。島は群島のうちの三島(前方)から本島(後方)のつながりを、約二〇〇尺の高さで、南から北に架けたものである。全島住友の製糖で、製糖工場、硫黄工場などの建物が立ちならび、この島に約二千人の人が働いてゐる。本島の方は主として住宅地となり、病院があり、小学校があり、島の頂上に見えるのは、島の神社である。尾道、新居浜などへ隔日に住友の船が通つてゐる。



26 宮 島 (安 藝)

瀬戸内海の一角にボツカリうかんだ宮島の夏景色、右方に突出してゐるのが燈台の標識で、その下、町の中に円なりに白い日鏡の見えるは土産物街、中央右寄り松林の中に、千疊敷と五重の塔が一段と高く層層を見せてゐる。その左が厳島神社で、御笠瀨から西の原の一帶に造り出された長い廻廊を現してゐる。その干渉の中に有名な大鳥居が見られる。



27 中禪寺湖 (下野)

日光中禪寺湖と、その排水を懸けた平瀧淵を下敷した風説である。男
難山の磐石崖に堰止められたこの湖は、水面の幅さ一二七二尺を以
し、深さ二二方、深さ一七〇尺、湖底色を承へて見事な風説を見せ
てゐる。この湖から落下する瀑さ百餘尺幅一〇尺あるといふ事蹟
も、空から見ると、たゞ糸のやうな一線を引くだけで上空を穿んでゐ
ると、磐石崖の「懸崖の感」などまるで吹きとんでしまふ位のもので



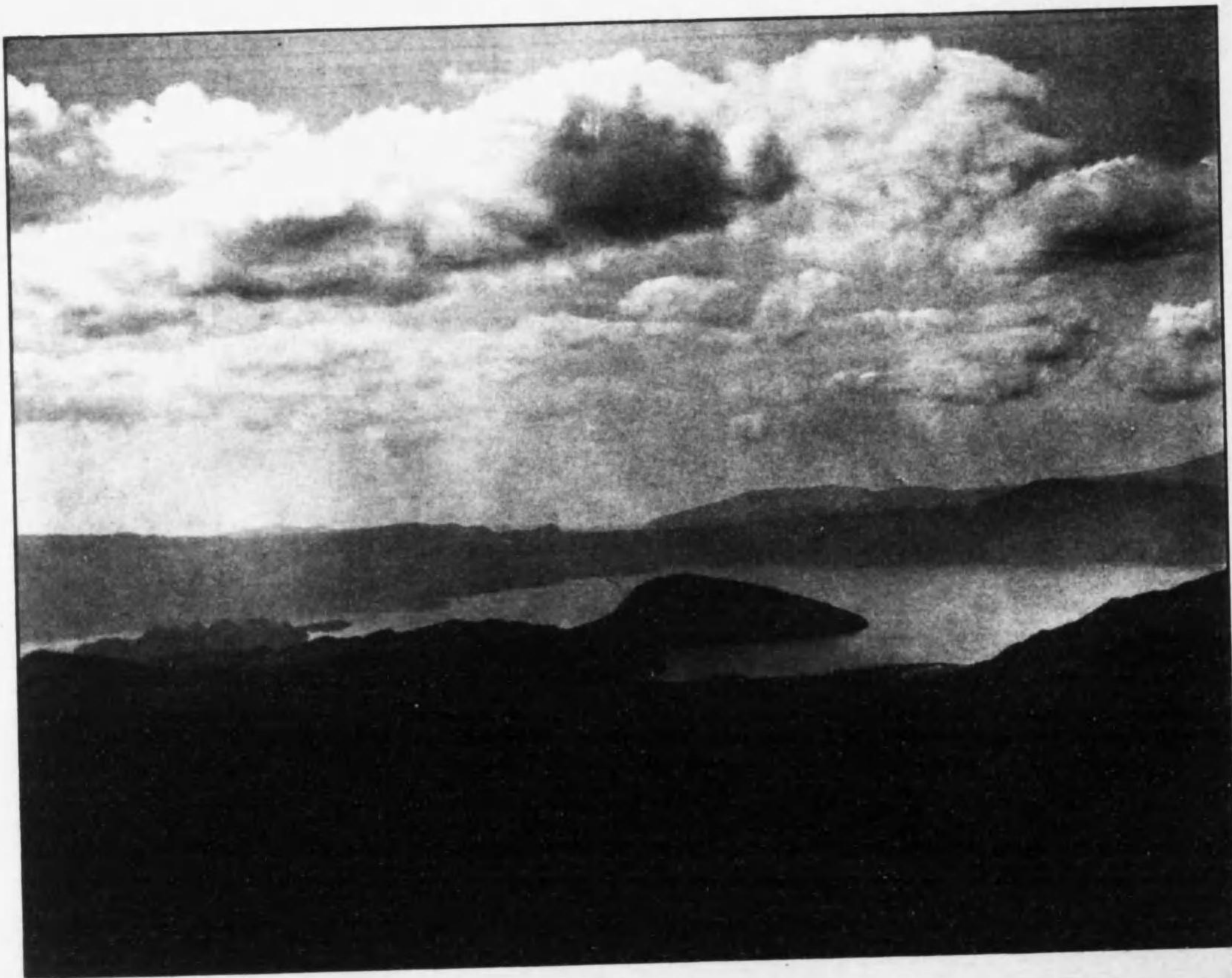
28 男體山（下野）

男體山の麓から遠く日光白根の連峰をみた中禪寺湖の風景で、白雲がねち／＼と舞ひかゝつて来る間から、鏡のやうな湖面を見出したときには、はつと驚かず呼吸がつけるやうな思ひである。日光光の美しさはすべて男體火山の雄岩流が作り上げたものである。その富士を映く美しい山容は、雲裏では右に切れて見ることが出来るが、日光光一帯の風景が遠く目の前に開けて来る。



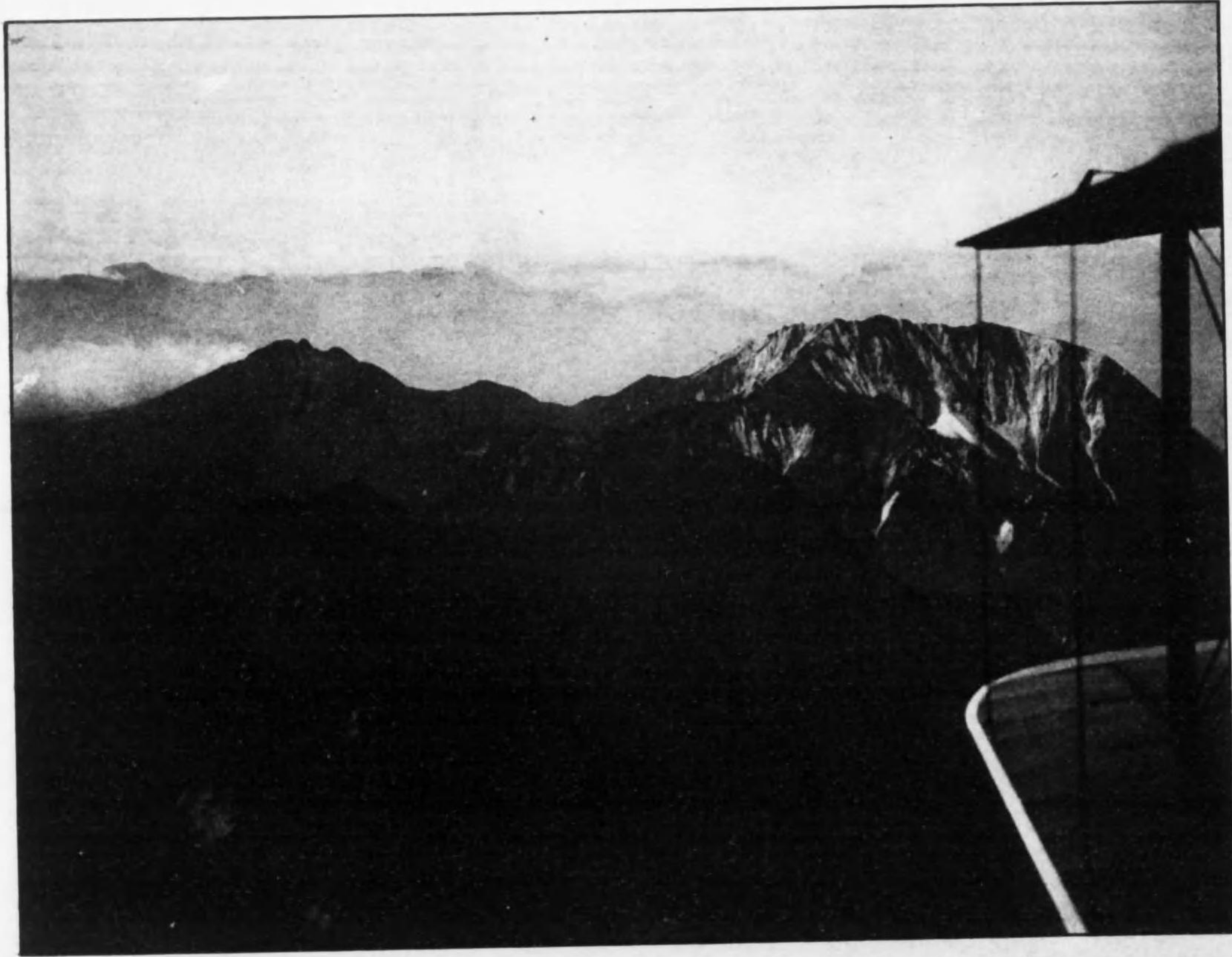
29 十和田湖 (陸中)

十和田湖の中湖および内湖を臨む中山嶺の突角を、南方から北に向つて撞したもので、半島の手前屈曲せる湖の右方に藍々と見ゆる人家は休屋。十和田の湖底のあるところである。高度が高いので地形を十分に知ることが出来ぬが、この半島から右にかけて中湖の東を隔らす御食山の絶壁は、千丈巖と稱へて、渾赤な岩肌を現し、藍をとかせたやうな湖の色に相映して無二の色彩美を現してゐる。半島の左側に藍々とある島は甲島、恵比須島、鶴島など、いま湖畔をめぐつて立派なドライブ・ウェイが通じてゐる。



30 十和田湖 (陸中)

前頁からもう少し、東に振つて、御釜山半島の上邊りから見たもの、中山嶺の半島が低く沈んで、前方はるかに湖邊にある巖山の建物などが見ゆる。十和田湖の美しさは、どうしても、あそこに一瞬間も滞在して、雨に、風に、四六時中變化する湖の色を味ははねば判らない。わが社の日本八景に入つてから非常な發展をとけて、世界的名勝として有名になつた。



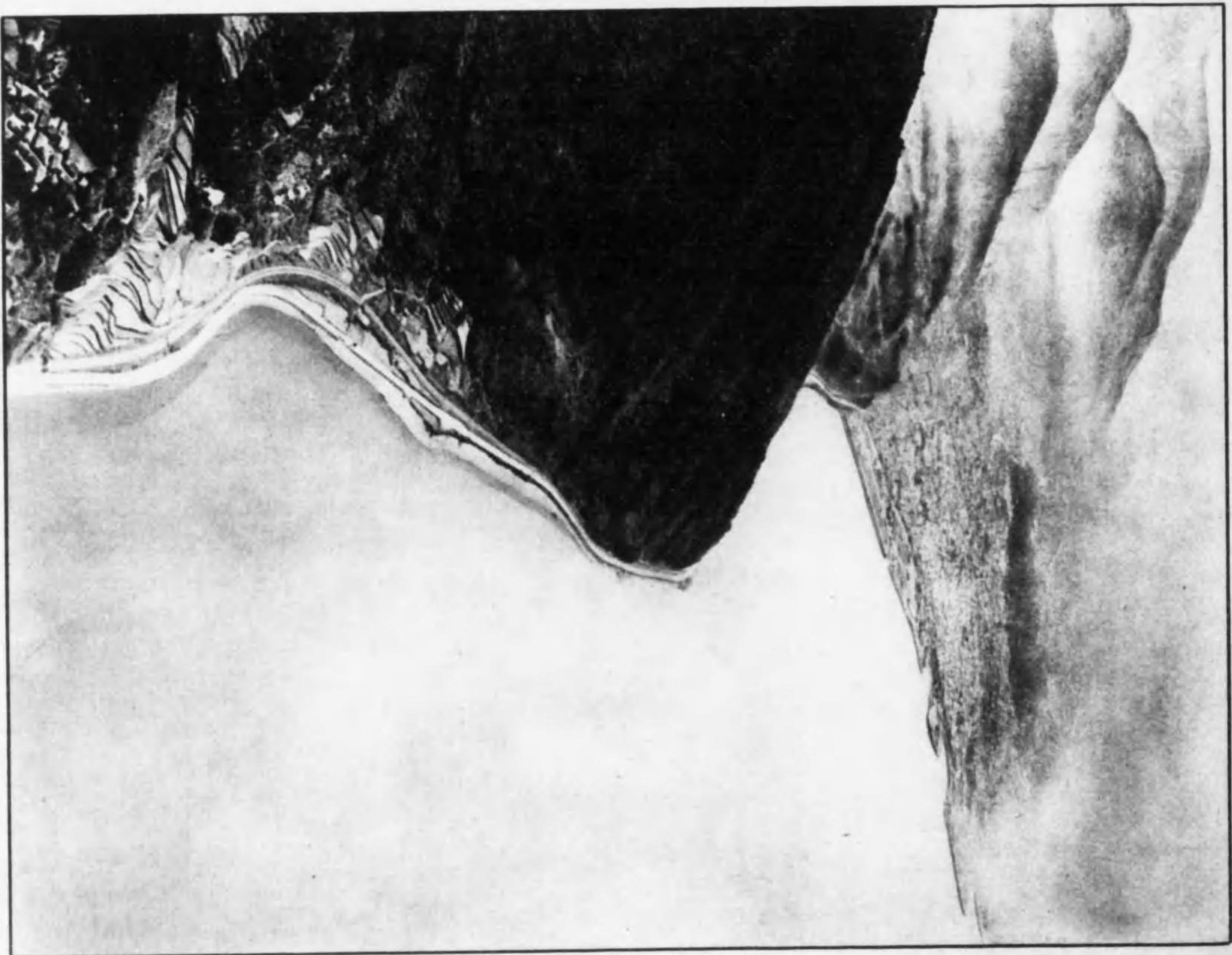
31 大山 (伯耆)

伯耆の大山を北西から南東に向つて見た景色である。大山寺のある大山村は、すつと右下にうつゝいてゐるが霧では見えない。霧火孔の隙、すつと左方の奥に、一七三の三所蔵がある。左方につゝいてゐる山は烏ヶ山。遠く遊んでゐるのは中園山脈である。



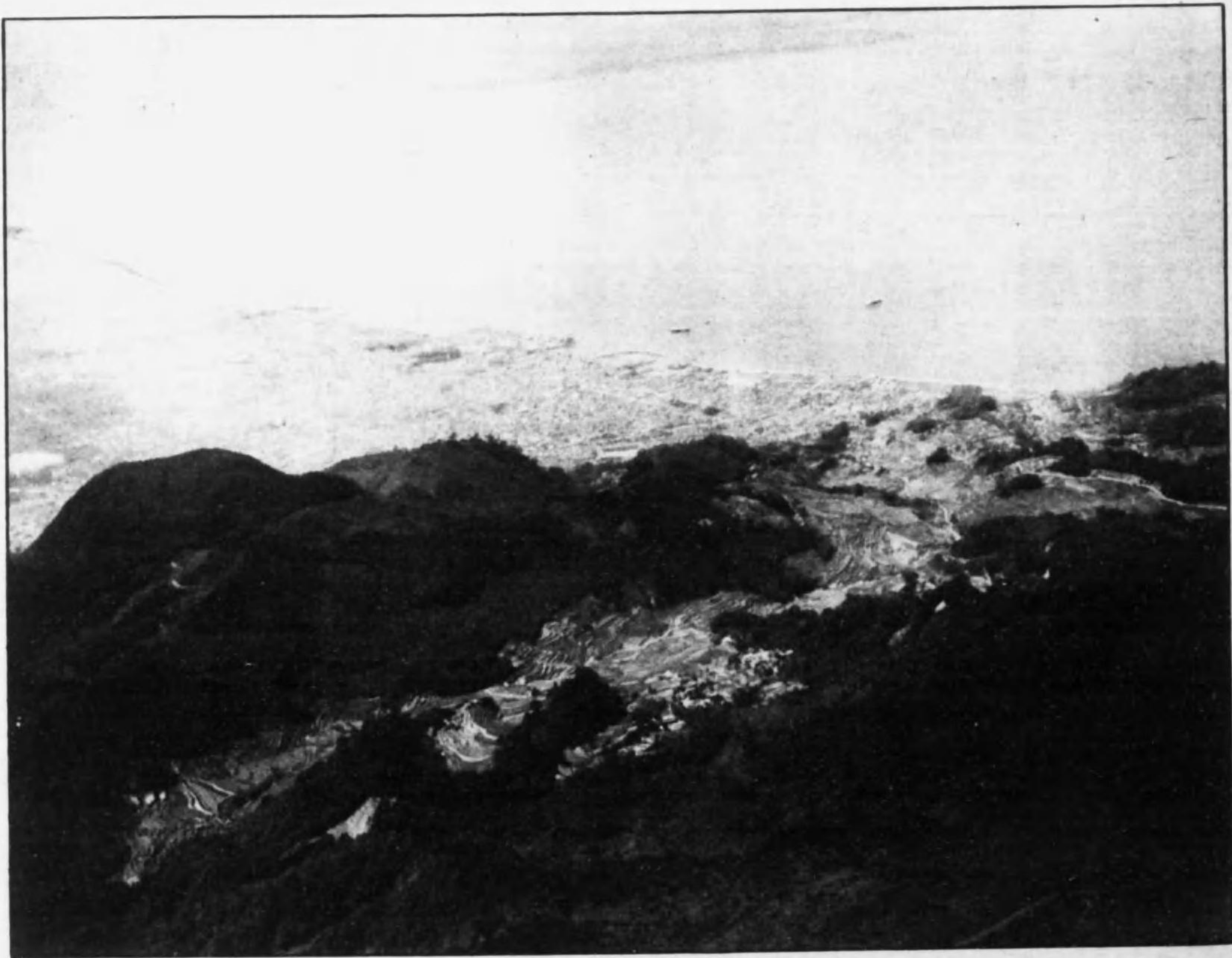
32 別府、高崎山（豊後）

高崎山は、豊後中津かに六二八の小さい山であるが、その切り立つたやうな山の巔が、別府の町に懸して、どの位その軍艦を懸つてゐるか判らない。山中に窟があることなど有名であるが、別府へ遊すものも、この山の頂上を知つてゐるものは少いであらう。少し窟はあるが、山下一面に聚落の町が展げ、炊煙が町一帯に立て籠めてゐる。



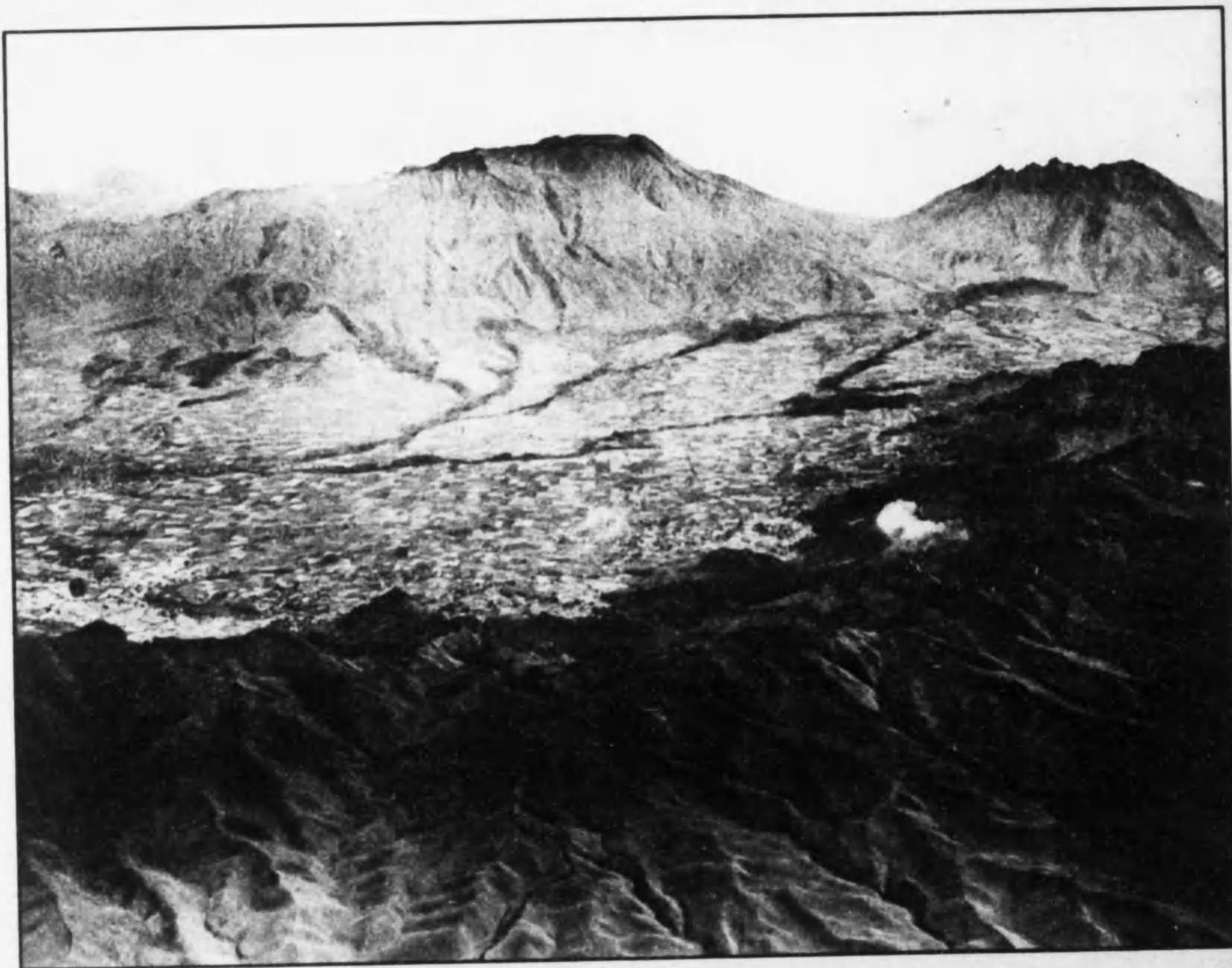
33 別 府 (豊 後)

圖中左手から強く張り出してゐるのは高崎山の岬で、海近く手前に見
 れる段々畑と人家は、神崎の部落であらう、高度五〇〇は、海岸線を
 離つて、大分方面から北東に別府線を望んだ見事な海濱景観である。
 はるかに奥部の雲が繪のやうに見える、町並から次第上りの鶴見山、
 屏山をはじめとして、小さな火山群が、雨ばれの濃霧を引いて、さな
 がらに雲海の美しさである。



34 別府灣 (豊後)

葛崎山の上空をめぐつて、左に約六〇度はどの方位をとり、葛崎山
 邊りの上空に來たとき、北東に向つて遠く別府市の人家を見下ろした
 大觀で、手前の山は百重山につゞく鶴見嶺、東嶺の丘陵、先に火災の
 ため大損害をうけた鮮海寺遺跡はこの山麓になつてゐる。境内には日
 ぼしい船も浮ばず、一面に小波をたゞへて渡るやうに静かである。



35 南郷谷の阿蘇（肥後）

阿蘇の噴火を南郷谷阿蘇町方面から望んだ大観で、右は櫻子岳、左は
 馬場の雄嶽、二つの山の間に阿蘇の地獄の道が通じてをり、宮地から
 馬場へ通ず唯一の通路であつたが、近來馬場に汽車が通じてからはこ
 の峠道は殆ど人影をみなくなつた。手前に黒く引く山は、阿蘇外嶽山
 の大原を俯瞰したものである。



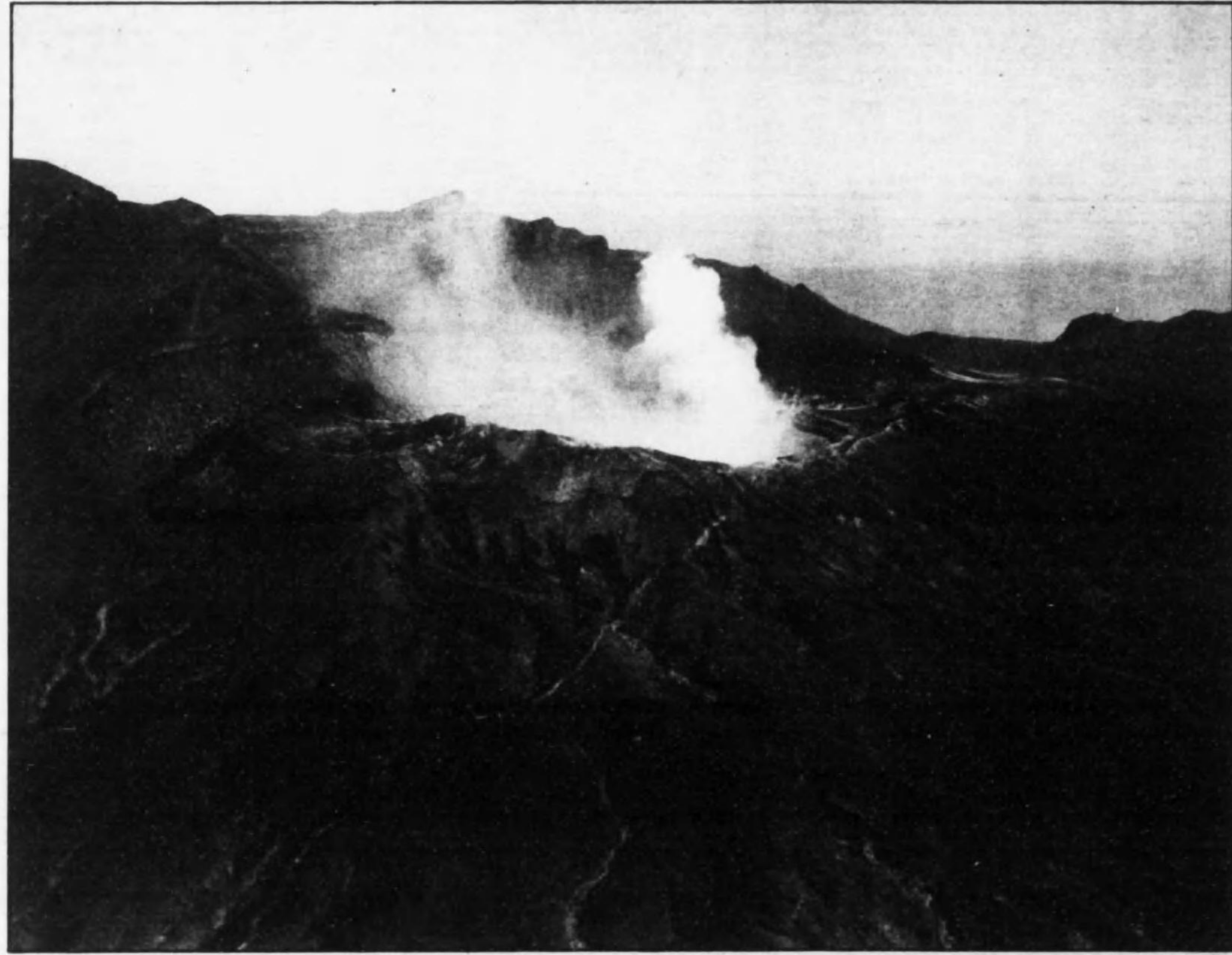
36 阿蘇谷の阿蘇 (肥後)

前ページとは反対に、北方宮地方面からみた大観で、左方が櫻子岳、中央が藤岳、噴火口は中岳の中央にあつて白い噴煙を上げてゐる。この大観は阿蘇あたりから豊後川によつて火口原に入つて行くものゝ、展望する大観で、廣大な火口原一帯の村々は、いま眞青な茅の一色に彩られ、見渡す限り、青函原のやうな大きさを見せてゐる。



37 阿蘇中岳 (肥後)

阿蘇山阿蘇郡の北東部から、中岳の噴煙を望んだもので、遠く霧んである遠山は、多分九任山脈であらう。阿蘇の麓で、山々の高さ非常に異なつて見えてゐるが、手前に近く見られるものは阿蘇で、左へ一帯に引いてゐるのは、阿蘇火口の外壁、頂上から右へなだれてゐる山麓の中途に見ゆる突岩は、窓ヶ峰、鹿ヶ峰などの岩場である。



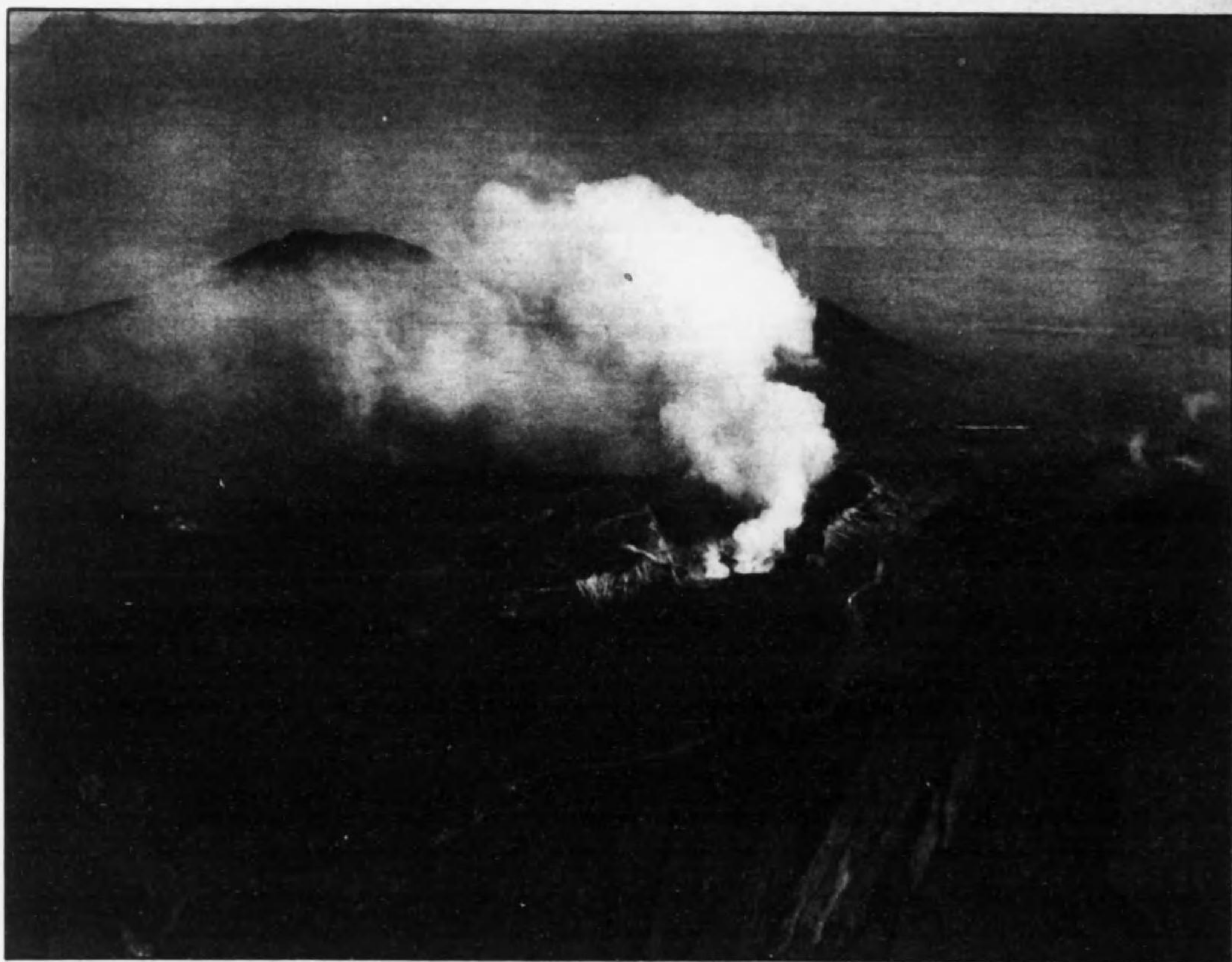
38 阿蘇噴火口 (肥後)

明ページから中岳噴火口に漸く近づいて行つた景色で、中岳の外壁が
 明かに見ゆる。下から斜に引いてみる白壁は、本堂下から東南に向つ
 て登る道、後ろに見わたるものは高折南方の外壁である。



39 阿蘇山 (肥後)

山麓町町の南方二千尺の上空から、西南に向つて見た阿蘇山の火口。左方が葛城で、中央が中嶽、右嶽が鳥帽子嶽である。遠く霧の中に外嶽山を窺ふ今大嶽嶽を見られぬが、中嶽の噴火口より一産の白煙が立ち、四方の地形がよく窺はれ、他に見られぬ雄大な風景である。



40 阿蘇噴火口 (肥後)

阿蘇山が近づいて、火口が近くなるに従って、阿蘇の山々が高く見ゆるやうになる。一帯に礫土を流した山肌と、平地には阿蘇特有の茅が生じてゐる。阿蘇は高尾南方の阿蘇を隔て、中岳の噴煙を望んだもので、天竺山にかすんでゐる阿蘇山は、日肥との國境をつくつてゐる阿蘇の山脈である。



41 阿蘇噴火口 (肥後)

阿蘇中岳噴火口のうち、南の方にくらゐりてゐる休火口で、いまでは
 孔に水をたゝへて、死のやうな状態を守つてゐる。下部の白い線は
 硫黄中流から噴火口に到る道で、この孔へは、足場をはかつて下る
 ことが出来る。上部に見ゆるのは中岳の火口で、白く二線を引くのは
 噴き出した火山灰の堆積に引く線であらう。噴火口の直径約二〇
 〇メートル。



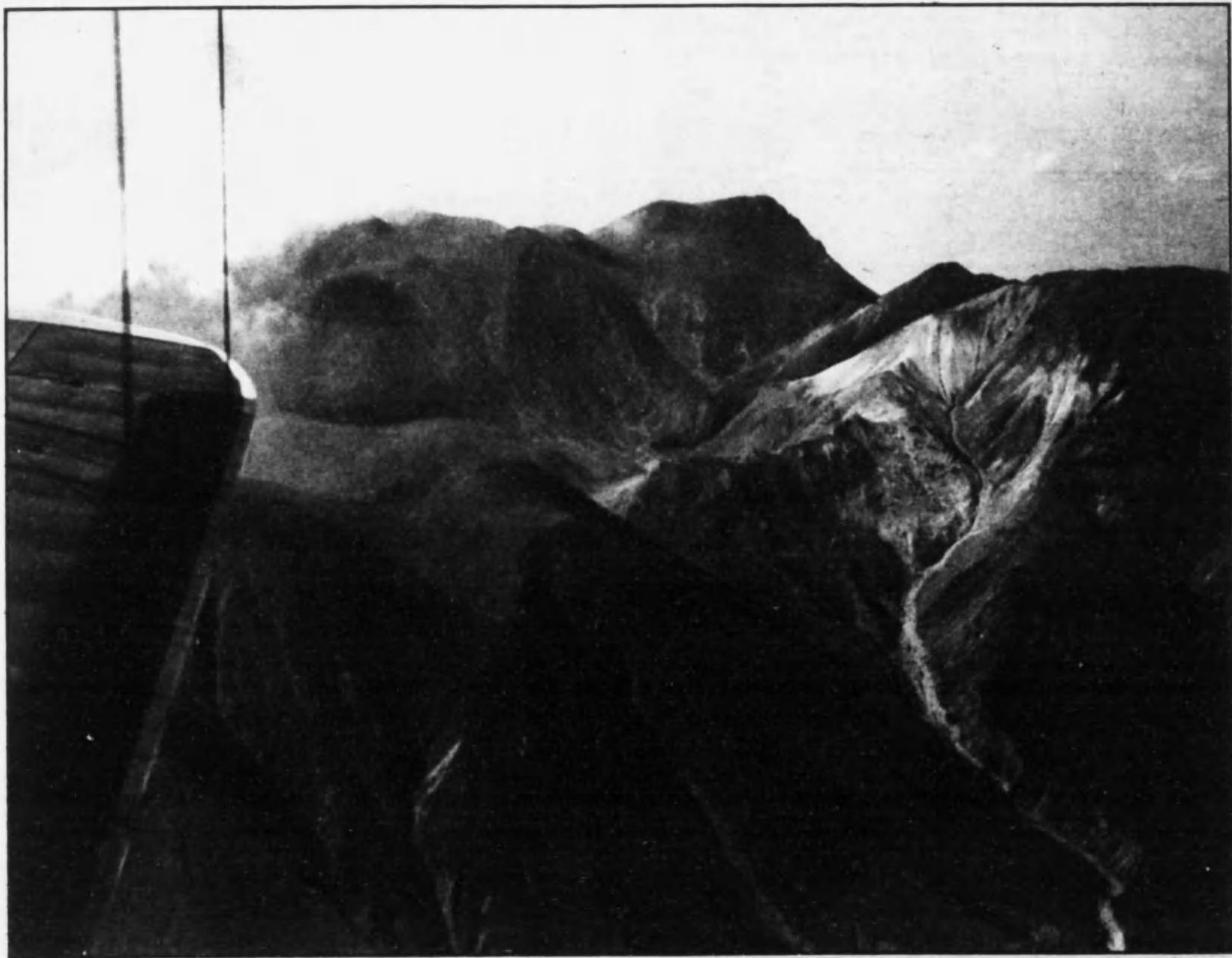
42 阿蘇、噴火口 (肥後)

阿蘇の噴火口上、約一〇〇以下に下降して、西北から東南に火口
 底を覗き込んだ景観である。噴気のさかんに上つてみるところから少
 し右によつて、噴気の沸き立つてゐるのが見ゆる。附近一帯動土は
 土を揺らして、火口壁の見事な柱状節理が非常な迫力をもつて、驚ひか
 かつて来る。火口の周囲をめぐると、白硫黄、千里ヶ瀬および火口
 つまぐら山路、左手の側面に近ごろ出来た茶店の屋根が見ゆる。右手
 の黒い丘上には無数の登山者の姿が見ゆる、盛んに万葉を誦する。
 噴気は空気にまされながら、しばらく噴火口上の雲霧をつゞける。



43 阿蘇、根子岳 (肥後)

阿蘇五岳中の根子岳の怪奇な別荘を、南西(高嶺側)から望んだもの、山腰色見村から登る道は霧霞の中央から右方へ引く山腰を仰ぶので、頂上近く太い白線(雲)を横いて見わたるは天狗岩下を横にからむ登山道である。その上の岩が天狗岩、この道とところどころに懸崖にすがる場所などあつて険である。右から左へ頂上の峰を崖を縦走するととも出来るが、かなり危険な多く険しいザイルの使用が必要である。標高一、四〇九m。前方に見わたるのは宮地方面(宮地ヶ原)の火山口である。年々千人近い登山者が岩の壁方に頼りつけられてゐる。



44 久住山 (豊後)

豊後久住町から登山する久住山の雄大な山容を、南、久住高原の上空から望んだものでこの絶景は一、七三八、大崎、平治、三保、黒岩などの諸峠が相集まつて、火山群峰の見事な山容を形作つてゐる。殊にこの山々をめぐる高原の立派なことは、阿蘇の湖野ヶ原にも劣らぬ大景で、殊に秋の久住高原は放牧の牛馬みな肥けて空気が清み、天下の絶景である。



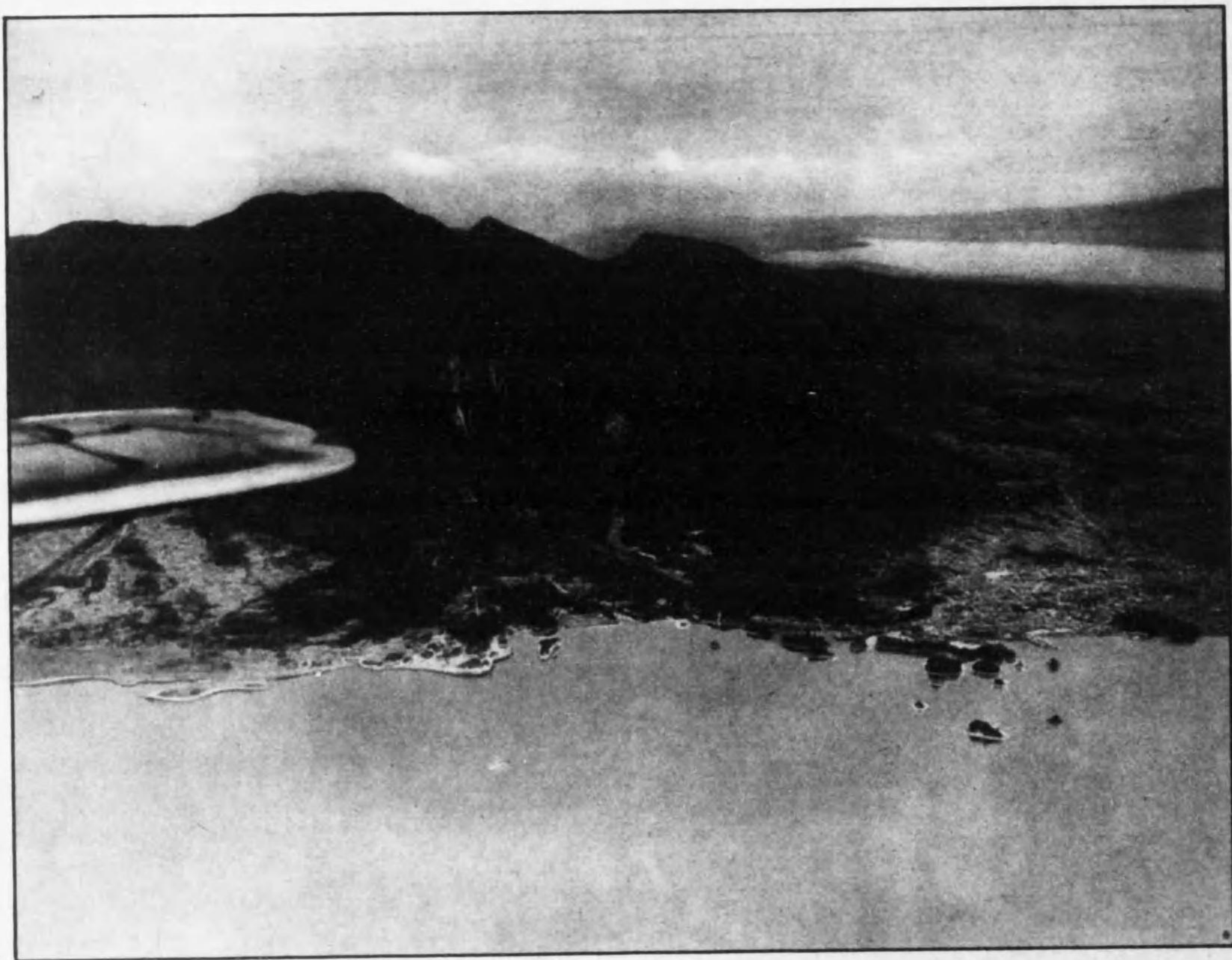
45 温泉岳 (肥前)

島原半島の地境、雲仙公園のあるところ、火山群の最高峰温泉岳（菅野田）を南西から見た景である。ゴルフリンクスや温泉場などのある温泉火口の公園は、この山からすつと二里余も下になつてをり、國中一道路に右へ引いてゐる尾根が仁出峠、それから下方にゴルフリンクスが見ゆる。道は山の尾根を傳つて右へ菅野田の森林地帯に入る、温泉つゝじの紅と白しやくくなげとが有名である。標高四千五百八、この深い峡谷をなす東入谷、瀬谷などは、秋の紅葉の美しいところである。



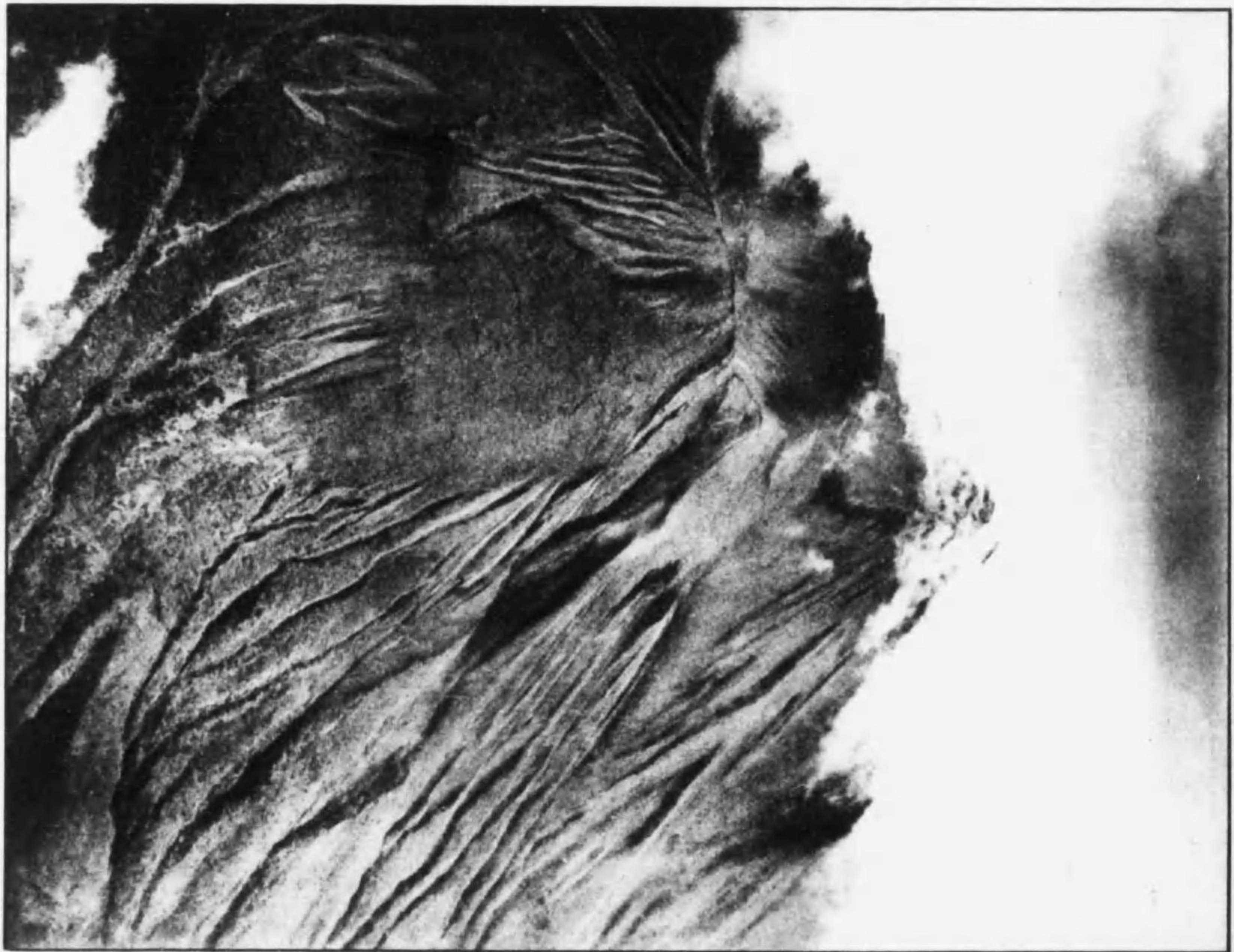
46 雲仙公園 (肥前)

鳥原方面から登る雲仙登山路を俯瞰したもの、左手の山峯に點々と白く見えてゐるのが、噴火口の中に出来た五輪公園で、噴気孔、ホタルなどが軒を並べた遊樂場である。中央の黒い山は矢岳、山の向うに右へ引いた白い高嶺地はゴルフリンクスのあるところ、これから仁田峠を経て、湯沢町の湯島峠を経て待つて行く、山道を巻いてゐる白線は鳥原から登つてゐる登山道で、この道を乗り合自動車が付近の大塚を昇下しながら登るのである。



47 島原港 (肥前)

島原港の上空、約一、〇〇〇尺から、瀟々島原港方面を穿んだ大霧で、九十九島といはれる群島、海上に散佈して、嵐雲の住のところである、島原の町は、すつと右方にあり、朝霞の山は、往年燦爛して噴出した眉山。その後ろに凝りて見ゆるのは濃霧岳、左右に伸びて海岸線をつくつてゐる島原半島のスロープは、天下の大巖を極めてゐる。海軍公館に行くものは、海上この大巖を見ながら美しい島原港に入るのである。



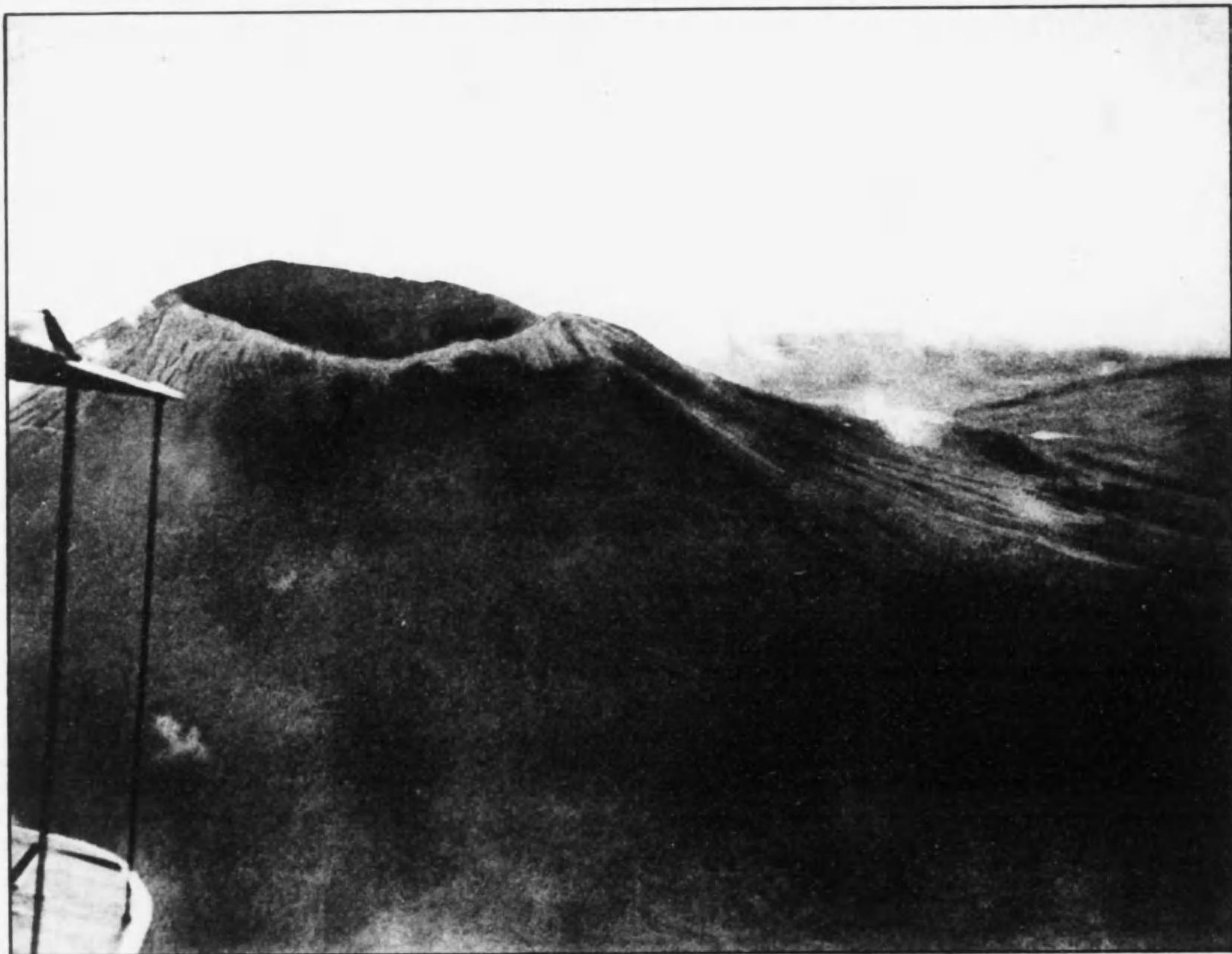
48 高千穂峰 (日向)

天徳院の遺跡の南に地獄山火山の麓に高千穂の嶺である、雲の
隙間を冠つたやうな表、照壁一、半、深さ百に余の噴火口はまるで
大口を開いたやうだ。頂上は雲に隠れて見ぬが、火口の右から頂上
への登り道が見ゆる。阿蘇の如き雄姿はないが、山容の雄麗なことは
阿蘇に劣らぬ、山麓に高千穂神社の上宮一、六〇〇尺の高度で北東に仰つ
て置いたものである。



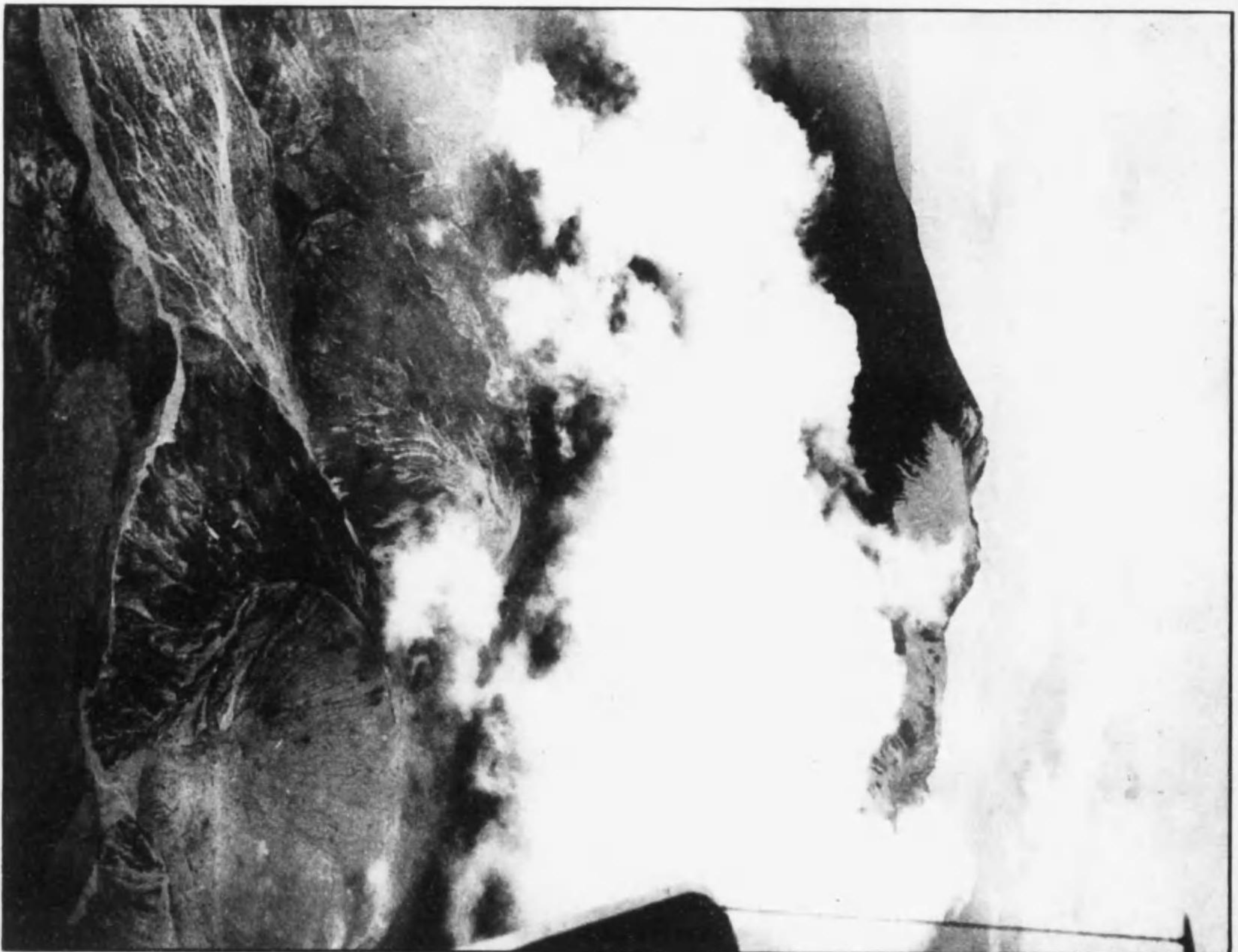
49 霧島、新燃 (日向)

霧島火山群のうち、高千穂と鞍馬岳の間に噴出した新燃を、東南から北西に向つて見たもので、これは山らしい名をなしてゐないが、一、四二〇坪の荒々たる山である。西側の大沢池から見ると、すつかり赤ちやけた山肌を現して、なだらかなスロープを見せてゐるが、裏から見ると、ところ／＼青い色に彩られてゐる。重苦しい雲がかぶさつて、鞍馬の邊りは雨が降つてゐるらしい。



50 霧島、韓國岳 (日向)

霧島火山群の中で、もつとも特色のある韓國岳を、北東から望んだもので、大きな噴火口を取りめぐらせた湖火山の構成をはつきりと描き出している。同じ火口に水を湛へてゐる大瀧池は、山の向う側になつてをり、登路はそこを火口壁の最高點(千六百九十九)に達してゐる。右へ引く山麓の下に、白く煙の上つてゐるのは、カサ海の東にある硫黄地帯附近の硫黄孔である。



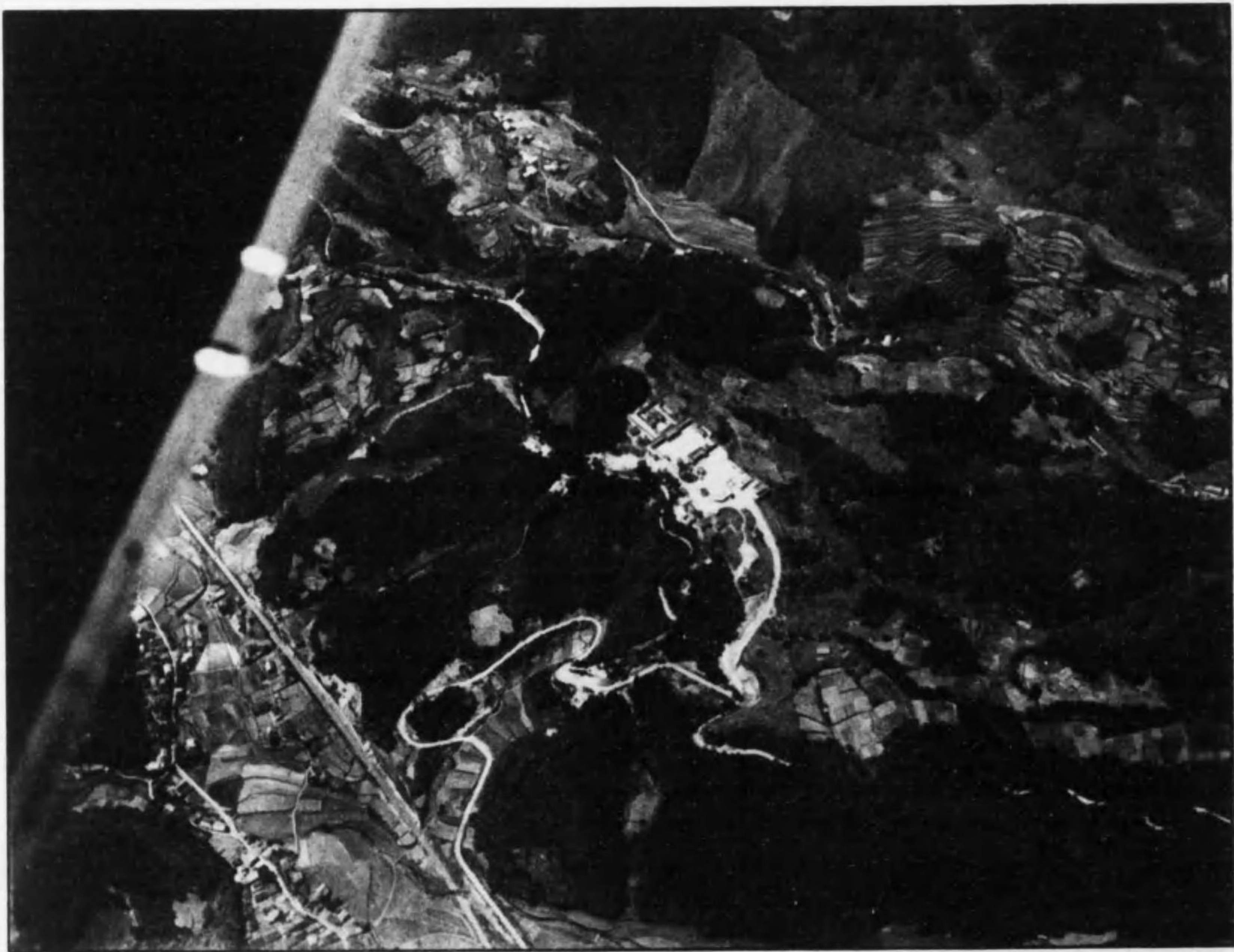
51 櫻島御岳 (薩摩)

櫻島の最高點御岳は、標高千三百三十三、寂々たる高山で、表層の岩路は普通鹿児島に相對する西岸の武村からするのであるが、夏季などは可なり積雪の上の登攀に苦しめられる。野嶽は島の周縁を巡つて、南東方面から白土の間に御岳の峰頭を見たものである。



52 錦江灣 (薩摩)

鹿児島市の南の町はつれ、鹿児島市の上空から、北東に向つて下瞰した錦江灣および櫻島一帯の大景で、夕陽が海面に落ちて、金色の波をたへてゐるところ、櫻島は霧を雲に包まれて見せてゐないが、つみても雄大な景色である。手前の岸邊、右は天保山の砲兵場につき、甲斐川の海に入るところ、海中に張り出してゐるのは埋立地である、海上約一里、けふは穏やかな油を流したやうな海面をみせてゐるが、少し風があると波浪が早く可なり荒れるところである。左に黒く見えてゐるのは城山のある城山で、一面、燃ゆる所の恐ろしい塔岩が海に入り込んでゐる。



53 吉野山 (大和)

上市町を少し過ぎて、吉野山の入口、吉野神宮方面に阿ヶ尾尾約五〇〇
 〇の上空から南西にみた山景で、中央に白く神宮の境内全部が見
 ぬ、それから山をめぐって、蛇行する立派な登山道が引かれてゐる。
 登山道の下流には村上天光の窟があり、左の下方一帯に新に
 引く線は、吉野道の線、この流りの窟は上市から吉野川を南に
 渡つたところ、丹波および附近の村落である。



54 山上ヶ岳 (大和)

野村ヶ岳西方の上空に、高度二、〇〇〇から東北に見た吉野群
 峰の露巖である。中央に黒く二ツの峰頭をみせてゐるのは、夏は白衣の
 登山者で賑はふ山上ヶ岳(大峰山)標高一、七一八である。
 手前に黒く左へ引いてゐるのは、観音山の尾根、前方に深く窪んでゐる
 のは吉野から峠通りを来る大天井岳および四寸岩山の連峰で、大峰の
 登山口である。河川はこの山下の左方にあり、前方の谷間を右に穿るの
 である。見渡す限り一面の針葉樹林と、雪が多いので、航空写真の
 撮影には困難なところである。



55 大台ヶ原山 (大和)

北山川谷を臨みて、大峰山と相峙する大台ヶ原山が上層雲に覆はれた姿である。吉野川あたりからグン／＼高度をとつてこの雲の上に出で南へ南へと進行。時々白雲が飛行機の翼をかすめて視界を遮り、急に眼に寒さを感じる。霧の上層雲間に黒く峰頭を見せてゐるのが大台ヶ原山で、白雲の下は雲間から陽が透れて山姿を見せてゐる。吉和谷國有林の上空に、〇〇はより北に向つて寫したものである。



56 佛經ヶ岳 (大和)

大和郡山中の最高峰、佛經ヶ岳(一九一五)の標高である。山上大谷ヶ原などを登って、この群山脈の中に入ると、余ほど注意してみても山頂を見失ふことがある。この尾根通りは昔から大峰(大峰)七十七峰と稱へて、感んであつたものだが、一時(一時)へ、近年また登山(登山)の勃興とともに感(感)した標がある。吉野郡の上北山村天ヶ瀬から登ることが出来、雪山の頂上には行人小屋があつて登山者を泊めてゐる。



57 湯崎 (紀伊)

湯崎および白濱温泉一帯を俯瞰したもので、この邊は尾紀における遺跡地として、最も發見しつゝある土地である。地形は、殆ど田舎の南方、墨島嶼りの上空約一、〇〇〇尺から南西を望んだもので、國中中央同岸に白く見える巖が白濱海岸。それから湯崎温泉の人家につゞき、上部の右端は温泉のある瀬戸岬の突岬である。前面の左方は瀬不知一帯の海岸で田舎からの船はこゝを發着點とし、將來この方面が住宅地として發展するであらう。黒い山丘を斷ち切つて、横に白く半島を横斷してゐるやうに見えるのは、瀬不知から白濱に至る大道路である。



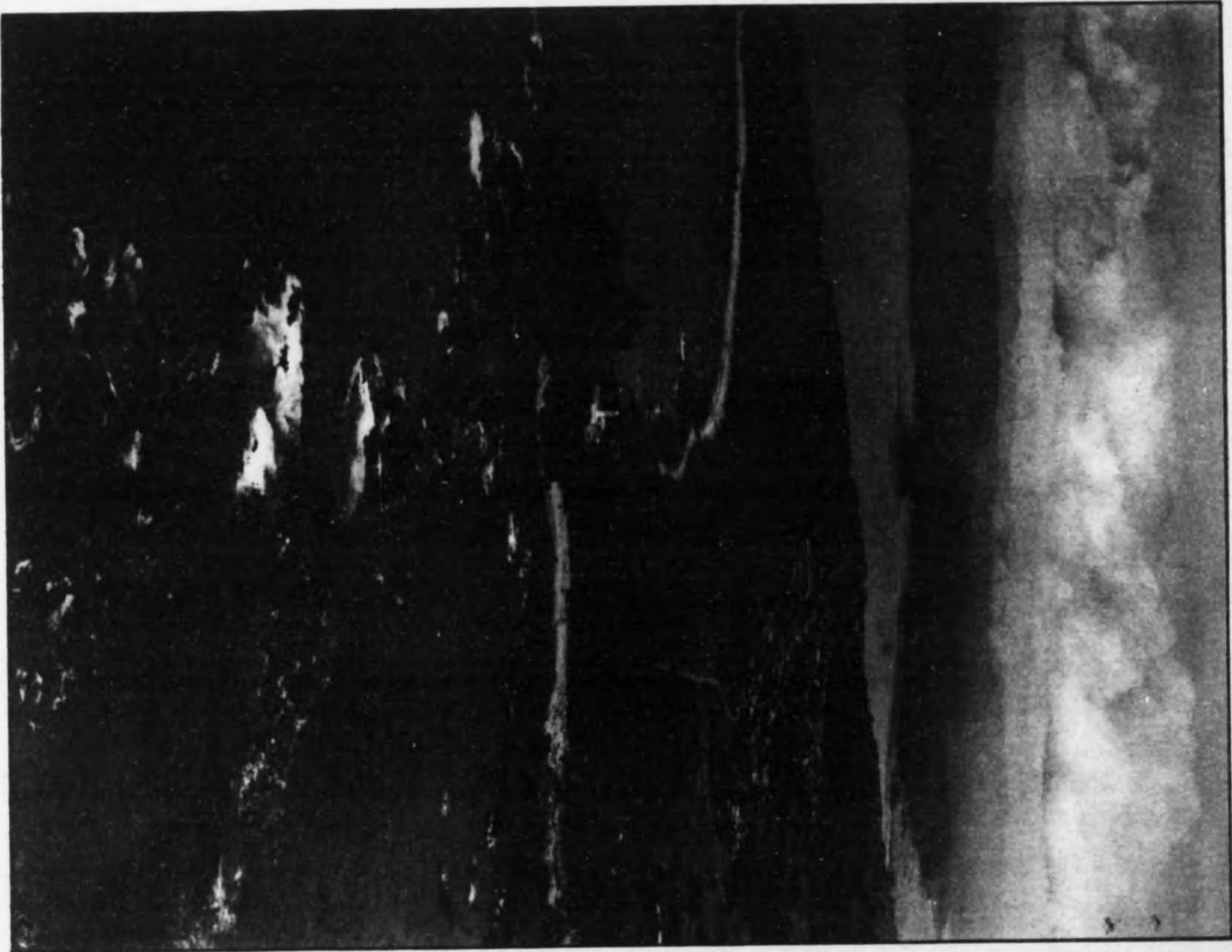
58 瀬戸鉛山 (紀伊)

いまでは白濁^{びやくじやく}の産^う所^{じよ}のやうになつてゐる瀬戸鉛山村^{せとえんざんむら}香所^{かうじよ}の突^つ崖^{がき}を、東から西南に向つてみたものである。田舎^{いんが}の雨^{あめ}で、足も近く雨^{あめ}に見ゆる人家^{いんが}は、江津^{えつ}良^ら。それから白く長^{なが}江^えを引いて、突^つ崖^{がき}の少し手前^{てまへ}に、賑々^{にぎぎ}と白く見ゆるのは、曾て上^{かみ}陸^{りく}下の行幸^{ぎやうぎやう}を導^みつた瀬戸^{せと}鉛^{えん}山^{ざん}の産^う所^{じよ}、岬^{さき}を中央^{ちゆうわう}にして右にあるのが塔^た島^{じま}、左にあるのが四^よ双^{じゆう}島^{じま}である。北岸^{きたん}の左^{ひだり}に、雲^{くも}を纏^{まと}いてゐる人家^{いんが}は白濁^{びやくじやく}の産^う所^{じよ}、瀬戸^{せと}鉛^{えん}山^{ざん}村^{むら}の部落^{ぼくらく}の方^{かた}につゞく道^{みち}が白く光^{あかり}つてゐる。



59 田邊港 (紀伊)

日良半島海上の上宮から、北に田邊港をみた風景で、南紀の大都會である田邊町の豊は、海岸一帯を埋め立てて、曾津川の海に入るところ、海岸古町につどく繁華を見せてゐる。田邊は海岸の瀬戸船山村に控る麗い郷であるが、風を防ぎ難いのと、潮浅であるため、早く雨果へ一。あまりの文里に繁華を築いた。手前の黒いのは日良の半島。古町の神には鯨々漁船の浮んでゐるのが見ゆる。



60 潮岬 (紀伊)

どんと打つ波の潮岬は、本州の最南端である。海蝕台地で突き出た燈台の附近が最も高く、海面から八十五尺の高さをなしてゐる。燈台は高さ六十三尺、東西の突壁に立つてゐる。岬の上部は上野(うの)の村でその右上海岸に墾んでゐるのが岬の本町である。昭和四年六月長くも至るの行幸を仰いだところで、町を離れて海岸に通ずる中央の白砂はその時に遺棄された行幸道跡である。



61 潮岬 (紀伊)

前ページの位置からさらに高度を下げ、陸に上り、東北から西南に向つて、潮岬の岬角を俯瞰したもので、岬角から左へつゞく海岸の砂浜が著くるところ、一つの山丘を越して、海岸に見える白い建物が無線電信所。その前から芝生に細く道のついでるものは、牧場の平地地につゞくものである。潮はいまや干いてゐるが、風の強いときは、浪がときどこの岬の基底を洗ふことがある。串本からつゞく道路は上の丘を通つてゐる。



62 串本港 (紀伊)

大島の南端、通夜島の上宮から、遠く北西に串本岬一帯を望んだ大島で、手前は通夜島、前面中央に南海を一眼によつて隔ててゐるところが、串本町である。その前の小さい島は前我島。右から出てゐるのが大島の西端。西の方につゞく陸地は瀬神の半島で、手前の岸邊に見ゆる那志は、明宮神社のある出雲の郡落である。遠く六郎崎かとおもふ山々が、雲煙松樹の間に隠れてゐる。



63 串本町 (紀伊)

あの串本町で名高い串本藩。それを西から東にや、北に臨んで望んだ
 風景で、前面右方から出てゐるのは、すなはち「阿比は大島」の大島、
 艦現息を前にして、大島の村が見ゆる。左手から海中に點々と黒い線
 を引いてゐるのが橋樑。前方はるか古座から勝浦にかけての長江
 曲浦がかすんでゐる。町の中央から海中に出てゐるのが串本神社。町
 から右の方へ橋樑へ行くドライブ・ウェイがつゞいてゐる。町の幅は
 五、六百に過ぎない。近來右手の狭いところを掘削つて、東西の海
 を通する運河の計画中である。



64 檜野崎 (紀伊)

串本港の南にあつて、串本筋に名高い大島、その東端にある檜野崎の
 岬で、高度約三〇〇尺、上から見つふたものでは、平たい島に見わ
 てるが、海面から岬まで三七〇余の断崖絶壁をなしてゐる。道程
 長く、崖壁多く、明治廿三年九月トルコ軍艦が遭難して、乗員五百余名が
 海の沖舟と消れたところである。岬の左手岬端にかゝるところにそ
 の遺構が立つてゐる。平地地にある白い遺構は、かつて聖上陛下の
 御前を記したもので、この遺一趾のまにで天宮海鏡風光絶佳である。



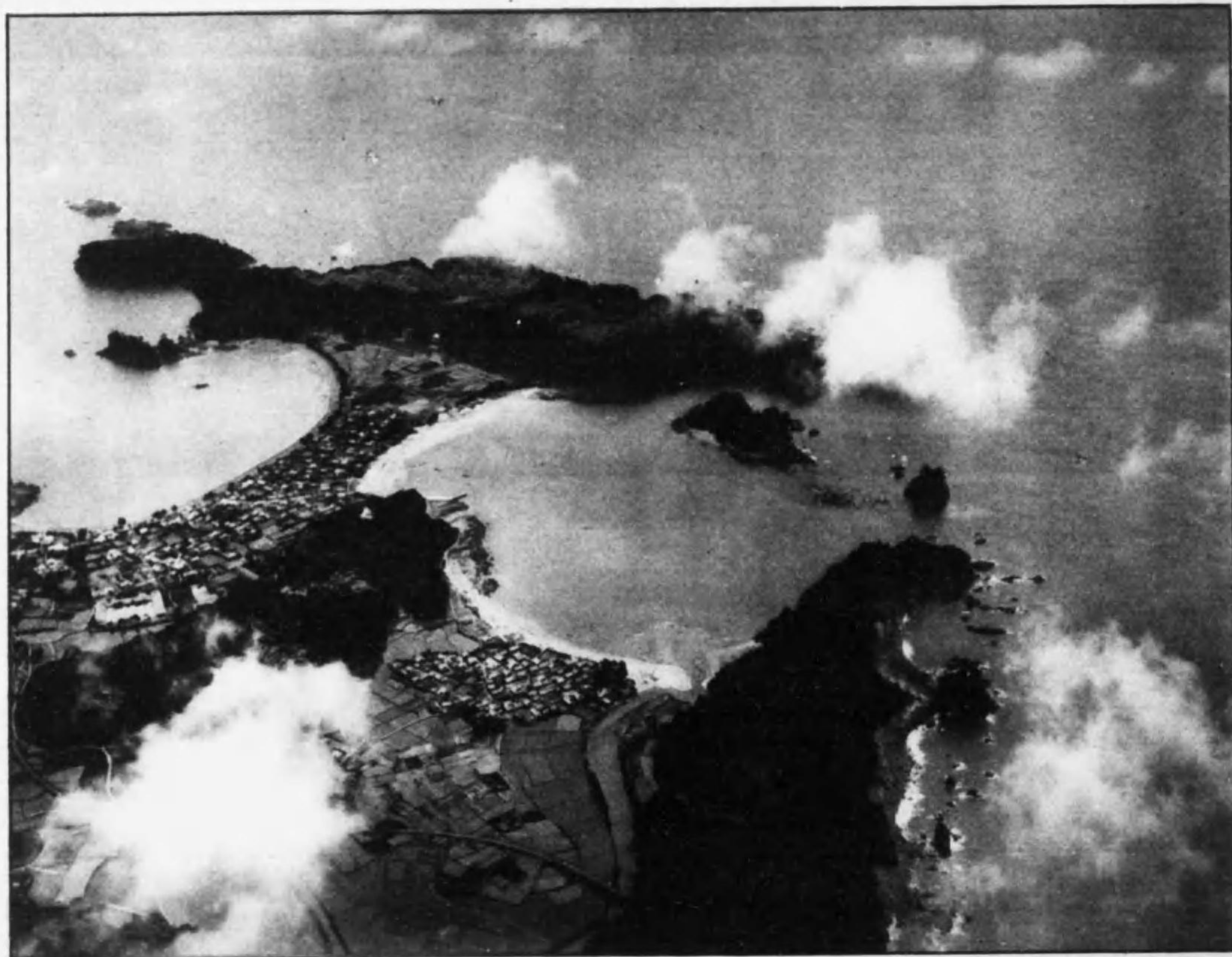
65 周參見町 (紀伊)

本と、田邊とをつなぐ脚野街道の中ほど、古郡街道との分岐点にな
 っている周參見の港を、西から東に隔つて眺下したもので、港の中
 の島は松島、左方、港の水の入り込んでみるところは小泊の郷、
 周參見の村は、島の隣の半島から左についでいる。周參見川のつ
 くつた山側の平地には、本郷地、平松などの郷集が見れる。田邊に
 行く脚野街道は、こゝから海にはなれて高田坂にかゝる。手前の山腹
 につけられた白い道は小泊から日置村に脚野街道である。



古座町 (紀伊)

熊野川と共に、紀州における河川美で有名な古座川の河口である。古座町は河口の東側(右)にあつて、西側は西河村である。間に架つた橋は熊野街道である。半鐘半段の町であるが、人口約五千。この川を上流に約一・五ほど上ると、藤原町があり、それから、三尾川に控るまでの約一五ほどは、古座町といつて、灘にも秀らぬ後谷の故郷をみせてゐる。



67 宇久井港 (紀伊)

那須郡から約四、ほど東北に寄つてゐる宇久井の港を、北から東南に
 仰つて俯瞰したもので、高度約八〇〇、地形がさながら川本と瀨明
 との眺望のやうである。中央の磯内に佇んでゐる島は瀨島、右方手前
 の黒い岩岬は宇久井の岬、右の磯の背後に聳立つてゐる村山は太
 真地であらう。那須街道は、下部左端の白雲の下を走り、新那須道と
 共に那須に走つてゐる。



68 勝浦灣 (紀伊)

勝浦の南、夏山あたりの上空から、緯八〇度はどの程度をとつて、東北に勝浦方面を望んだ景色で、もつとも手前二ツの嶺を隔ててゐる半島の突端にあるのは龍島、中の島は白島の下になつてみれば、黒き丘陵の彼方に、勝浦の町が見ゆる。船はこの湾内に碇泊するので、それを隔んでゐる半島は、外ノ島、赤島、黒島などのあるところ。右端につづく島は番外の龍島。すつと上の外港は近く弁天島を越して、遠く宇久井の突端まで出て見ゆる。



69 那智の遠望 (紀伊)

市野々の上空約八〇〇尺から眺めた那智の瀧の雄姿である。那智川へ入流する河船の客が、早朝、甲板上からこの瀧を望むことがあるが、白雲の捲くと、異様な針葉樹林と、白雲を引いたやうな水流との風貌が、どこか宗教的な厳かな気分を示してゐる。雲霧の下に見ゆる白瀧は、那智川の流れと、那智川から山腹を登つて来る白瀧車道、霞々と白く見ゆるのは青岸渡寺のある那智村の民家である。



70 那智の瀧 (紀伊)

天下の名瀧の那智は熊川から北西三、妙法山の山麓にあつて、高さ百廿二、幅十三、形如岩の懸崖から直下してゐる壯麗で、落ち口から瀧までが一瞥のなかに、こんなに見ゆる絶景は珍しい。瀧の傍らに菅原神社があるが木の間にかくれて見ゆぬ、このお山の上の菅原神社は西國三十三所第一番の札所である、標高は高度約二〇〇の標上から眺下したるもの。



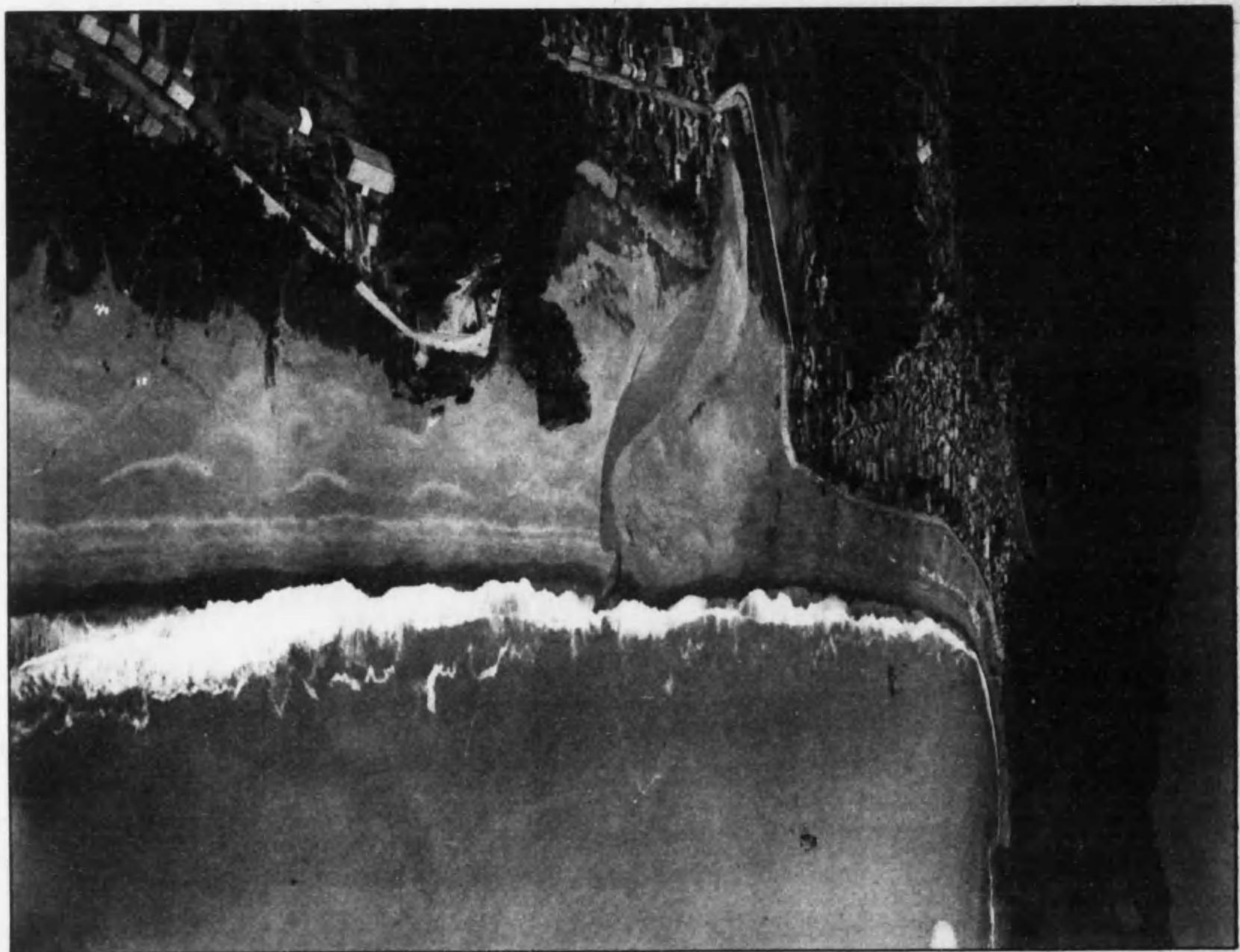
71 新宮町 (紀伊)

新宮町の上流から、北西に臨つて、海に近い熊野川の河口を俯瞰したもので、川の流れが三東郡と和歌山県を分つてゐる。新宮の町は新宮川が町をつつてゐる名である。こゝから新宮の成川に臨つて津島が通ふ。熊野郡と伊勢郡との唯一の津島である。中央に見える川に臨んだ黒い山は、古く赤松氏の居城として有名な熊野城のあるところ、川を渡ることに約二十分、熊野郡の名物プロマラ船はこゝを渡船としてゐる。



72 熊野川河口 (紀伊)

熊野川の海にそそぐところ、上流から新宮町の一角をかすめ、南に降つて、長江を曲げたもの、下に見ゆるのは南岸河口にある貯木場で、三重、熊野の森林から伐採され、長さ一三〇、熊野川を流して来た筏は、みなこゝに集まる。堰から少し上つて、同じく堰に堰を引いてゐるのは熊野川と新宮川の間の堰。一帯に起伏する藪や丘をへだてて、深く白雲とすところ、はるかた三重郡の美加が見ゆ、熊野、丹島など新宮に浮んでゐる。



73 木ノ本海岸 (紀伊)

香取から木ノ本にいたる間七里の距離、木ノ本町に入るところの長
 江橋である。手前の家は羽市木の邸、海道はこの邊で左方に別荘
 して、松原の邸を設け、前方木ノ本町に入つてゐる。中央左方から砂
 灘を眺つてゐるのは、井白川の流れ、その手前左方から湧出してゐ
 る岩窟は獅子ヶ岩、正殿右方の巖から風船通ひの汽船が出る。



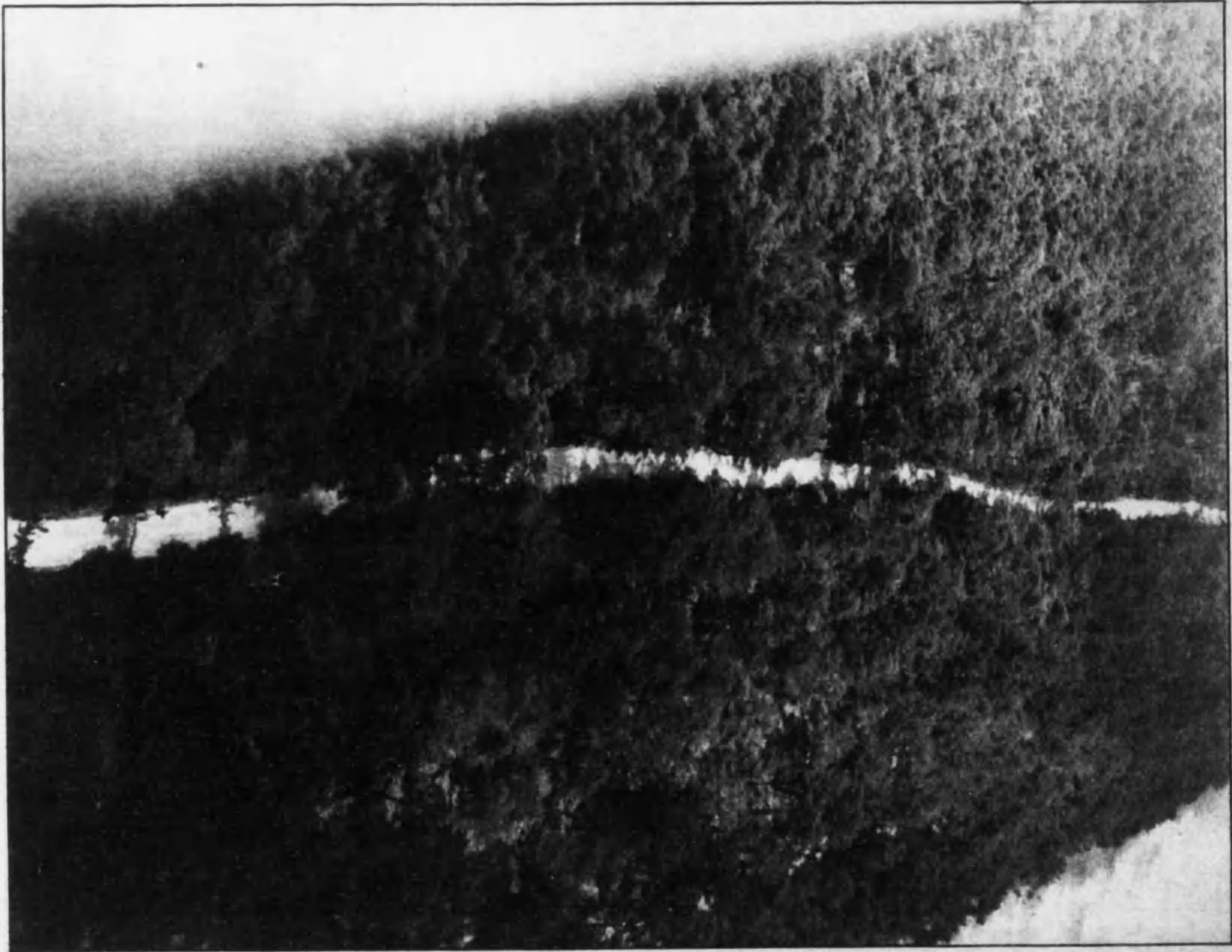
74 木ノ本町 (紀伊)

此の郡の中心として、有名な木ノ本町を、海面上空から俯瞰した
 もので、人家をめぐらせてゐる中央の山丘は、頂上に寺院があり、奇
 岩の懸崖をつくつてゐるところ。その右に遠く山手に輝つて走つて
 ゐる山道は、飛鳥村を経て原野へ通ずる郵便道の地帯で、今は乗合
 自動車を通つてゐる。道路のすつと右方に白い一線を引いてゐるのは
 切通で、ここから原野通ひの船が出てゐるが、風の強い日はかなり
 波が高い。



75 鬼ヶ城 (紀伊)

紀伊木の本の海岸における奇岩で、崩れ白、緑道の雲きるところに、
 脚りつつたやうな脚置を見せてゐるのは、日本百景に入つた鬼ヶ城の
 岩置である。自ら天窓をなしてゐる岩置の内部には、約二百人ぐらゐ
 の人を入れ得る脚置がある。回廊から左へ、岩置に白く崖に引かれた
 不規則な白壁は、木の本方面から岩を傳つて来る近置であるが、これ
 はときどき窓口に洗はれて、通行が途絶ゆるので、新しく上部の山
 麓に來る立派な積置が設けられた。この意みに見られる石築の
 岩の立派な景観風貌である。



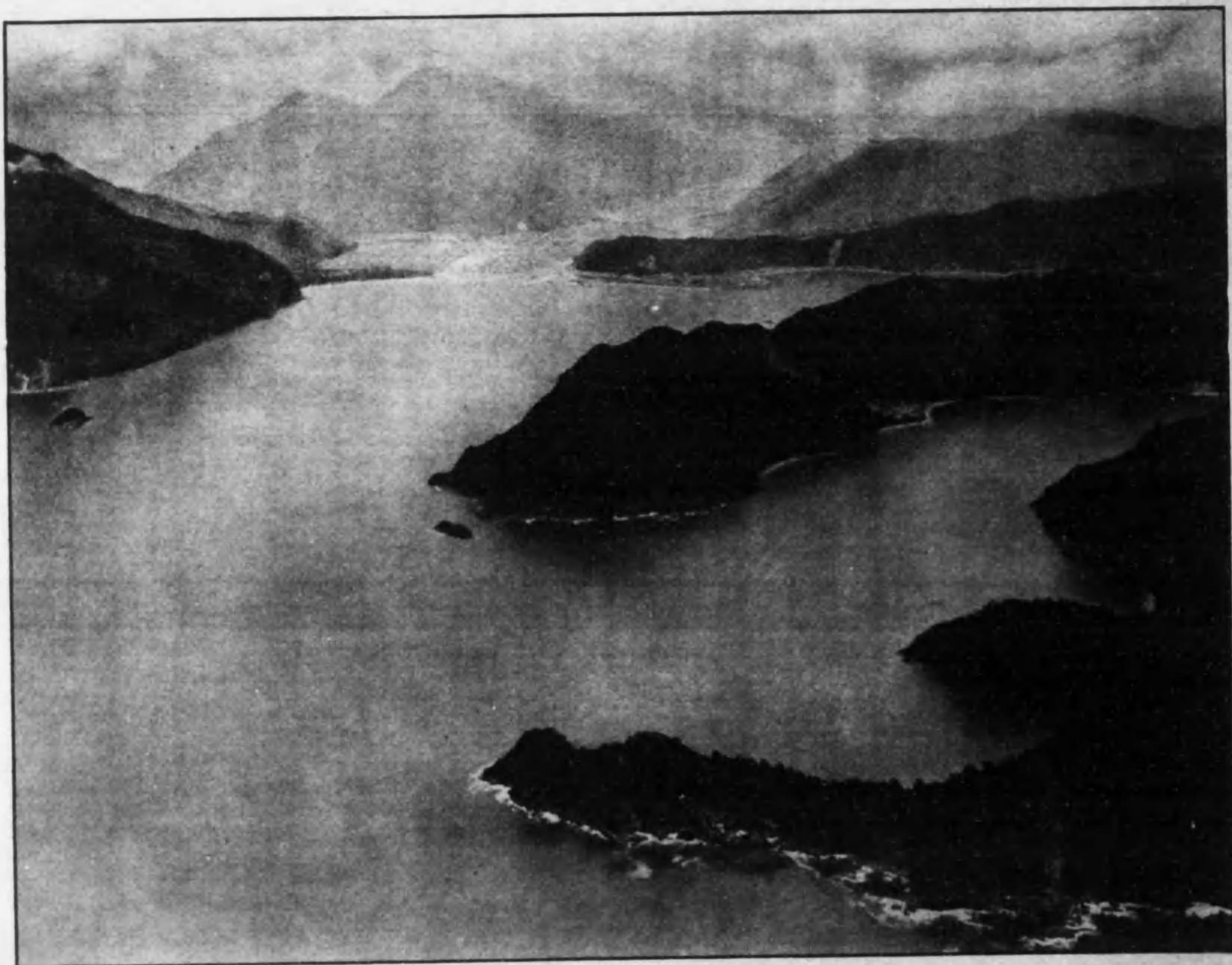
76 御濱七里 (紀州)

御濱は紀州の南海岸を走る海道を、やや斜に下瞰したもので、傾度の急峻上、山に登る坂路のやうに見える。下方が新宮、上方が木本、真はてうと木本町に近い有明附近を南から北に望んだもの、上野有明に海岸の砂浜が見ゆる。この邊では、道路は海から約十二三ほどの高さを通じてゐるが、海岸一帯、熱帯植物が繁茂し、新宮、木本間約七里を「御濱七里」と呼んで、長さと、道路と風光において、日本一のドライヴ・ウエーといはれてゐるものである。



77 尾鷲灣 (紀伊)

尾鷲灣の上空から、熊本朝倉に、海くもを穿んだ景色で、船は
この細やかな、磯内を渡るがごとく進んで行く。手前に見ゆる島嶼は
大きいのが熊鷹島、小さいのが佐賀島である。紀州側における要
衝で、坂井地方よりも新宮伊勢、名古屋方面の艦隊が強い。こゝから
大和の名山大台ヶ原山に通ずる道があつて、大和方面の守山者で、こ
こに下山するものが多い。



78 引本港 (紀州)

尾鷲町の東北、伊勢湾に近い引本港を、海上の空から眺んだ景色で、最も手前に白い波頭をみせてゐる岬は、尾鷲岬の岬。それからすつと港が奥にも入り込んで、正殿に引本の人家が見え、鏡子川および船津川の水を入れて出来てゐる白台の船が白く見わたる。午後になつてこの邊の上空に來たときはガスが多く、幾分風景を遮られ、遠山一帯は曇雲につつまれてゐた。



79 阿寒湖 (釧路)

阿寒湖の頂上から噴火口を経て阿寒湖および阿寒湖をみた大泉である。この湖には湖神を祀するほか、學術上大泉記念物となつた湖神を祀するので有名である。阿寒湖の高さ一、五〇〇呎。この山は阿寒湖のやうな噴火口はなく、全山が噴火に罹はれた死火山である。

國立公園候補地の調査

各候補地の特質及び區域

我國において國立公園が問題となつてから、被れ是れ二十年の歲月を闊してゐるが、當時國立公園に關しては、觀念も輪廓も漠然としてゐた。が、科學の發達により、規模宏大、風景絶佳な大自然が、水力電氣事業の起興等によつて、一たまりもなく破壊されるので、この風光を自然の儘に確保し、且つ國立公園がたゞに國民の健康上頗る適切であるばかりではなく、外客誘致上からいつても、等閑に附することが出来ないもので、内務省では、大正十年から全國に跨り、全國十七國立公園候補地即ち

- 一、上高地を中心とする國立公園、白馬山、日光、温泉岳、阿蘇山（以上大正十年調査）
- 一、富士山、大臺ヶ原、磐梯山（以上大正十一年調査）
- 一、阿寒湖、霧島山（以上大正十二年調査）
- 一、小豆島及屋島、伯耆大山（以上大正十三年調査）
- 一、十和田湖、立山（以上大正十四年調査）
- 一、大沼、登別（以上昭和三年調査）
- 一、大雪山（北海道）（以上昭和六年調査）

について、文獻と實地につき、職員を派して實地調査を行ひ、右の調査に基き、各國立公園候補地の素質、施設及び利用の現況並びに計畫の區域、必要なる諸設備に對する意見を纏めた。そして昭和五年に内務大臣を會長とする國立公園調査會を創設し、國立公園制度の大綱を決して、公園の觀念を明確にし、昭和六年十月國立公園法を公布實施した。よつて同法に基いて、新に官制に基く國立公園委員會が創設せられ、同公園選定特別委員會が、昭和六年秋から開設せられ

委員長 藤村義朗男、委員 三英帝室林野局長官、大島内務省衛生局長、木島農林省山林局長、佐原鐵道省觀光局長、正木直彦、三好學、木多靜六、脇水鐵五郎、岡部長景、田村剛氏等

が委員に擧げられ、各公園候補地について實地調査を行つてゐる。而して第一回にどの候補地が指定されるか、世人の視線を集めてゐる問題であり、土地の繁榮と、熾烈な郷土愛から候補地の地元より、熾烈な選定運動があり、勞々當局たる内務省は、選定の形式は同委員會に委任してゐるもの、腹案については鋭意研究を重ねた結果、若槻民政黨内閣當時は富士、日光、日本アルプス、十和田湖、阿蘇山の五大公園と、他に指定数を増す場合には、

瀬戸内海、阿寒、霧島三大公園を追加し、八大公園としようといふ確定で、委員会に臨んで見たが、若槻内閣倒れ、犬養内閣出現するも、任期短きために決定を見るに至らず、代つて齋藤内閣が生れた。この内閣は、政友と民政の寄り合ひ世帯で、一黨一派に偏倚してゐないから、この政府存続中に國立公園を決定することが最も合理的であらうといふ見地から、内務省は臨時議會開會前の八月中旬までに、選定特別委員会で決定するやう準備を進めてゐる。同省の國立公園の決定方針は、形式的には公園委員會の公園選定特別委員会に任せ、當局としては原案を提出せず、指定数は嚴選主義を踏襲することに決定した。

内務省の指定腹案

その嚴選主義による内務省の指定腹案といふのは、目下秘密になつてゐるが、仄聞するところによると

三大國立公園 日光、富士、日本アルプス國立公園

五大國立公園 日光、富士、日本アルプス、十和田湖、瀬戸内海國立公園

八大國立公園 日光、富士、日本アルプス、十和田湖、瀬戸内海、阿蘇、霧島

山、阿寒湖國立公園

といふ價値判断を附けてをり、たとひ嚴選主義を採るも、大體輿論となりつゝある八大國立公園を適當と認め、さう決定するのではないかと當局も委員會の空気を豫想してゐるが、なほ一方には、施設全き温泉岳、大森ヶ原から紀南一帯、大雪山の三國立公園候補地をこれに加へようといふ案もあり、地方的の競争も激甚である。選定近き國立公園候補地の公園としての特質と、その地域は大體左の如くである。

一、日光國立公園

1、公園としての特質

日光は東京、宇都宮、前橋に近く、東は日光町より、南は足尾町より、西は沼田から出入が出来、交通至便の地であり、併せて富士、上高地、磐梯山等の各國立公園候補地より適當の距離にあつて、附近には那須、鹽原、赤城山、榛名山等著名の風景地が隣接し、本邦屈指の遊覽地を成してゐる。

2、公園の區域

日光を中心とし鹽原、高原山、西方は片品川、南は庚申山に至る地域で、栃木縣上都賀郡及群馬縣利根郡に跨る、即ち中宮祠湖、男體山、白根山、戰場ヶ原、湯元温泉を包含する約一萬五千町歩、菅沼、丸沼、白根温泉を包含する區域約八千町歩、荷鞍山、尾瀬

沼、鬼怒沼を包含する一萬八千町歩及び巖岳、黒岩山その他裏日光一帯約三萬二千町歩を併せたる約八萬四千町歩である。

二、富士(附設箱根)國立公園

1、公園としての特質

富士山は我國を代表する山岳風景であつて、區域は巖峰富士を中心として、原始的雄大な自然を核心とする圓錐火山の典型的風景にして、御火山、高原、森林、湖沼、瀑布、洞窟等の風致を交へ、風景が素朴秀麗にして粉飾を加へざるも、探勝者を好く魅惑してゐる。

2、公園の區域

富士山を中心として、北西は精進湖、南方は御殿場、箱根に及び、山中湖、須走口、西方は入穴、大宮町に至る富士及び箱根一帯の地とする。本區域には富士山麓の裾野以下及び山梨縣に屬する山中、河口、西湖、精進及び本栖の五湖を包括し、北方は御殿場、十二ヶ岳、節刀ヶ岳、女坂、西方は龍ヶ岳、南方は下里木道に限られたる約七萬七千町歩の區域を最も適當とし、土地所有關係において、富士山の北半は山梨縣有大部分を占め、南半は殆んど御料地にして、山麓も概して公有地を主とし、約七萬七千町歩の大區域を一團地となすに適當。箱根は本公園の飛地としてこれに包含せしめる。

三、日本アルプス國立公園

1、公園としての特質

日本アルプス國立公園は、上高地、白馬、立山の三國立公園候補地を打つて一九とし、日本アルプス公園の名を冠したもので、上高地が本公園の精幹をなし、他に比類のない天下の絶景として内外に喧傳せられる所以は、その周圍に三、〇〇〇米に達する高峰を繞らし、一、五〇〇米の高位にある一大平坦溪谷たる地貌があるからである。白馬山は略一萬尺に達する白馬岳、杓子岳等の高峰を連ね、雪渓、高山植物の花畑その他湖沼、高原等の變化を有し、本邦高山型の景觀を代表するものであり、立山即ち東ヶ岳、淨土岳、雄山、別山、大日岳、黒部別山、劍ヶ岳、仙人岳一帯の山容は、我國に未だける最も高山的特色を帯び、神秘的健感的の豪宕、痛絶なる黒部峽谷を含む。

2、公園の地域

上高地を中心とし、燕岳、鳥帽子岳、鷲羽岳等を包括する高瀬川流域及び双六、雙ヶ岳、平湯温泉を包括する高瀬川流域を併せ、白馬岳を中心とし、北方白馬大池、南方白馬、

箱ヶ岳に至る白馬一帯及び木崎、中綱、青木三湖を含め、立山を中心とし五色ヶ原、劍岳、龍の波、猿飛に亘る地域を包含せしめるものである。

四、十和田湖国立公園

1、公園としての特質

十和田湖は海拔四〇〇米、最大幅一〇軒、周囲六〇軒、面積約五千四百町歩にして、水深三三〇米に達し、地學上カルデラ類似の成因に依り、湖水の周囲には高さ八〇〇米を上下する峰巒を繞らし、本區域は湖水、溪流、森林等を併せたる代表的風景である。

2、公園の區域

十和田湖、奥入瀬川、葛の湯、八甲田連峰及び樺ヶ峰、横岳等を含括せる約四萬八千町歩の地域で、青森、秋田兩縣に跨る。

五、瀬戸内海国立公園

1、公園としての特質

瀬戸内海の風光は、既に世界的定評あり、本邦国立公園候補地中海を代表する唯一のものにして、多島型海岸風景地として他の企及し得るものがない。就中、小豆島、屋島、鷹羽山、仙醉島等を擁する所謂編瀬瀬戸は、無数の小島群の形成する地形にして、よく陥落盆地たる特徴を説明し、最も變化に富み、内海中に在りてその風光は特筆に値する。又瀬戸内海は西歐の地中海にも比すべく、我國文化の潤養をなし、上代より史跡傳説が頗る多い。

2、公園の區域

岡山、廣島、香川の三縣に跨る編瀬瀬戸の沿岸、並に島嶼にして、東は小豆島、西は阿伏鬼に達する一帯の區域とす。

六、阿蘇国立公園

1、公園としての特質

世界的火山、所謂大阿蘇を構成する火山型風景にして、噴出による單峰、單純なる地形を現出したるが、後陥落により、世界第一と稱せらる、一大カルデラを形成したものと想像せられ、阿蘇山は外輪山と、その中央に噴出したる五岳より成るや、複雑なる重式火山にして、外輪山は火口原即ち阿蘇谷及び南郷谷を抜くこと二、三千尺、周圍三十里の絶壁を環狀に繞らし、雄渾無比の偉觀を呈す。

2、公園の區域

阿蘇山を中心とし、外輪山にて包容せらる、一圓の地と、外輪山の外方掘野の一部を併せたる阿蘇郡一圓と、菊地、上益城二郡の一部に亘る。

七、霧島国立公園

1、公園としての特質

特色ある火山景観、全風景を基調とし、湖水、高原、森林等により變化を與へられ、優美秀麗にして雄大、殊に山中より櫻島、開聞岳等を浮べたる錦江灣の展望に至りては、他に類を見ず、天孫降臨の傳説、その他興味ある口碑傳説に富み、本風景地に一段の光彩を添ふ。

2、公園の區域

北方飯盛山、東方夷守岳、御池、南方霧島神宮、西方霧島温泉、湯の池、岳の湯に亘り殆んど全霧島火山群を包括したる約二萬二千町歩の區域とす。

八、阿寒湖国立公園

1、公園としての特質

阿寒湖は釧路より直距十里、網走より約十一里、火山地方に生成せる東西六里、南北三里の盆地中にあり、盆地の中央には圓錐形火山たる雄阿寒湖屹立し、西南境壁上には雄阿寒火山群あり、雄阿寒岳を圍繞して阿寒湖、パン湖、ベン湖、元沼等の湖沼あり、殆んど全城原始林によりて蔽はる。雄阿寒岳の周圍四、二四〇町歩の森林は全く斧鉞の加はりしとなく、又雄阿寒湖湖腹の森林七、〇六三町歩も亦原始の状態を保ち、歐米の国立公園と最も近似の素質を有し、山容水態頗る非凡にして支笏湖、洞爺湖と共に本邦第一流の湖水風景地とす。

2、公園の區域

阿寒湖を中心とする西方雄阿寒湖岳より、東方川上郡原路湖に至る一帯とす。

九、雲仙国立公園候補地

1、公園としての特質

温泉岳は温泉火山と呼ばれる、複雑なる火山の總稱にして、數多の峰面群立し、雄大な輪廓を示せり、山上には地獄火口、札の原等の平坦なる高原地形所々に展開し、叢林草原牧場等之を裝ひ平和なる景観を呈す。

2、公園の地域

長崎縣温泉を中心とし、島原半島一帯即ち南高来郡一帯に亘る。

一〇、大臺ヶ原及大峰國立公園候補地

1、地域の支障

大臺ヶ原を含む國立公園内務省原案は、大臺ヶ原を中心とし、山頂の高原及び東谷の一部を併せたる約二千町歩の區域、並びに大峰山一帯を包容する三萬五千町歩であるが、地方の希望は、これに紀南一帯を附加したるもの、或は和歌山地方の希望は、紀南一帯のみを國立公園にせんとする希望がある。

2、公園の特質

大臺ヶ原及大峰國立公園候補地は、日本アルプス等に比すれば風景の規模はるかに劣ると雖も、人口稠密なる近畿地方にありて好く特色ある原始的風景地なりと見てゐるが、紀南一帯は自然の風光は明媚であるが、學術的價値に於て多少どうかといはれてゐる。

昭和七年八月五日印刷
昭和七年八月八日發行

蒼天に展く 不許複製

定價 五十錢

大阪毎日新聞社編

大阪府豊能郡箕面村平尾四九九

發行兼 荒木利一郎

印刷所 大阪市北区堂島上二丁目三六

株式會社 大阪毎日新聞社

發行所 大阪市北区堂島上二丁目

大阪毎日新聞社

同 東京市麴町區有樂町二丁目二一

東京日日新聞社

國立公園候補地航空寫眞 プロマイド焼付頒布

四ツ切形寫眞焼付各八枚一組
袋入、説明付
定價各組二圓(送料六錢)

本寫眞集に収録の寫眞中より更に壯麗なもの十六枚を選んで左記の通り之をA・B二組として特に御希望の各位にお頒ちすることに致しました。
寫眞は四ツ切大プロマイド焼付額面用としたものです。本社發行のプロマイド焼付寫眞は前回の「海岸線飛行寫眞」及「山岳飛行寫眞」に於て非常な好評を博したもので、優美な焼付寫眞の出来栄はグラフィック印刷とは又異なつた味があり、額面用として最適のものです。

A 組 B 組

- | | | | |
|-------|-----|-------|-----|
| 富 | 士甲斐 | 穂高、焼岳 | 信濃 |
| 宮 | 島安藝 | 靱 | 浦備後 |
| 屋 | 島讃岐 | 中禪寺湖 | 下野 |
| 十和田 | 陸中 | 錦江 | 薩摩 |
| 別府高崎山 | 豊後 | 潮 | 岬紀伊 |
| 雲仙 | 肥前 | 那智 | 瀧同 |
| 田邊 | 紀伊 | 阿蘇噴火口 | 肥後 |
| 新宮 | 町同 | 根子岳 | 同 |
- (本寫眞集) (本寫眞集) (本寫眞集) (本寫眞集)

發行所 大阪毎日新聞社 東京日日新聞社

尚右以外本寫眞集収録の寫眞で御希望のものは特に一種三〇枚以上焼付寫眞として調製お願ひ致します。

終

發行所
大阪毎日新聞社
東京日日新聞社